

作業療法科 (1 学年)

2025 年度 シラバス目次

科目名	項
情報科学	2
統計学	4
心理学	5
教養学	7
レクリエーション学Ⅰ	9
英語Ⅰ	11
英語Ⅱ	13
社会学	14
国語学	17
美術学	19
解剖学Ⅰ	20
解剖学Ⅱ	26
生理学Ⅰ	32
生理学Ⅱ	37
運動学Ⅰ	41
人間発達学	46
病理学	49
看護学	51
臨床心理学	53
精神医学	56

科目名	項
栄養学	58
リハビリテーション学	60
作業療法概論Ⅰ	63
基礎作業学総論	66
基礎作業学各論Ⅰ	68
基礎作業学各論Ⅲ	70
精神障害評価学	72
発達障害評価学	76
身体障害評価学Ⅰ	78
日常生活活動学Ⅰ	82
臨床実習Ⅰ	85

学科・年次	作業療法科 1 学年
科目名	情報科学
担当者	新井 隆裕
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義（演習）
教科書・参考書	30 時間でマスター Office2021（Windows11 応）／実教出版株式会社 SNS における個人情報取り扱いガイドブック／一般社団法人日本看護学校協議会共済会

授業概要と目的
情報科学の初学者にも理解できるように、具体例を用いながら情報科学の基礎知識について概説する。現在、情報通信、情報メディア技術の発展に伴いコンピュータは身の回りのさまざまなところに組み込まれ、利用されている。このコンピュータの原理や歴史、インターネットの仕組み、コンピュータセキュリティといった情報に関する科学・技術的事項の習得を目指す。また現在医療は ICT 化が進み、保健・医療・福祉のさまざまな場所で利用されている。そのため、コンピュータの基本的な操作とリテラシーについて基本の知識を学ぶ。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	情報の役割とコンピュータを利用した情報活用の重要性について理解する。 情報化社会に参画するために個人が身につけるべき情報モラルについて理解する。	情報の役割に関心を持ち、具体例を挙げて考えることができる。 情報化が社会に与える影響に関心を持ち、モラルなどに基づいた行動ができる。 また、問題点について説明ができる。	新井 隆裕
2	前期	情報化社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。	情報技術におけるセキュリティ管理について興味を持ち、対策などを考察できる。また、個人が身につけるべき方策や様々な問題点などについて理解し説明できる。	新井 隆裕
3	前期	電子メールの利用方法について理解する。	キーボードでのタイピングができる。 メールサーバの仕組みを理解し設定ができる。 電子メールのマナーなどについて興味を持ち、適切に利用できる。 また危険性などについて理解しメールの送信ができる。	新井 隆裕
4	前期	情報通信ネットワークの概要と、インターネットの様々な利用方法やその効果について理解する。	情報通信ネットワークに興味を持ち、活用方法を考察できる。また、仕組みや活用例を説明できる。	新井 隆裕
5	前期		検索・収集にインターネットを利用することに興味を持ち、効率的な検索ができる。 また、情報の価値や正確性について説明できる。	
6	前期	ワープロソフトウェア① ワープロの利用に関する知識と	ワープロを利用した基本文書の作成に興味を持ち、様々な文書を適切に選択できる。	新井 隆裕

		技術を習得し、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解するとともに、基本的な文書作成に関する知識と技術について理解する。	また、ワープロの基本的な機能を利用して様々な文書が作成でき、ワープロの機能などを説明できる。	
7	前期	ワープロソフトウェア② ワープロの多様な機能を利用して、表を含む応用的な文書の作成に関する知識と技術について理解する。	文書の作成に積極的に取り組み、必要に応じて様々な機能を選択できる。また、罫線表を含む文書作成ができ、罫線の機能などを説明できる。	新井 隆裕
8	前期	ワープロソフトウェア③ ワープロの多様な機能を利用して、図形や写真などを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術について理解する。	文書の作成に積極的に取り組み、必要に応じて様々な機能を選択でき文章に画像を挿入することができる。	新井 隆裕
9	前期	表計算ソフトウェア① 表計算ソフトウェアの特徴を理解し、基本操作について理解する。	演習に積極的に取り組み、適切な表の作成や基本操作ができ、特徴などを説明できる。	新井 隆裕
10	前期	表計算ソフトウェア② 関数を利用して有用な情報を導き出すための技法を理解する。	演習に積極的に取り組み、適切な関数を選択した表を作成し、関数の機能などを説明できる。	新井 隆裕
11	前期	表計算ソフトウェア③ グラフを用いて表のデータをわかりやすく表現できるようにするため、グラフの基礎知識や作成方法について理解する。	様々なグラフを積極的に活用し、適切なグラフが選択できる。また、目的に応じた形で作成し、特徴などを説明できる。	新井 隆裕
12	前期	プレゼンテーションソフトウェア① プレゼンテーションの重要性や基礎的な知識と技術について理解する。	効果的なプレゼンテーションの仕方について興味を持ち、プレゼンテーションの適切な実施や評価ができる。また、プレゼンテーションの準備などの流れの概要を説明できる。	新井 隆裕
13	前期	プレゼンテーションソフトウェア② プレゼンテーション資料を構成するスライドを作成するために必要な基本的な操作方法を理解する。	文字の入力ができる。 スライドのデザイン設定ができる。 新しいスライドが作成できる。	新井 隆裕
14	前期		イラストの挿入ができる。 オブジェクトの操作ができる。 スライドショーを実行できる。	新井 隆裕
15	前期	情報の表現と伝達を理解する	アナログとデジタルの違いを理解し説明することができる。	新井 隆裕
成績評価方法		期末考査に課題点を加味して評価点とする。		
準備学習など		欠席した場合は、当日に行った授業内容を担当教員に確認して、授業内容を終えて、次回の講義に臨むようにしてください。		

学科・年次	作業療法科 1 年次
科目名	統計学
担当者	大岩照宜
単位数（時間数）	1 単位 （15 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	なし

授業概要と目的
臨床現場で定量的な分析に用いられるデータの統計処理のきその他、サンプル同士の比較を行う検定を学ぶ。

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	統計の目的とサンプル代表値 ヒストグラムの度数と尺度	統計学を学ぶことによって、何がわかり、 何ができるかを学ぶ。	大岩照宜
2	後期	正規分布とデータのばらつき	正規分布の意味を知り、分散及び標準偏差 を求める。	大岩照宜
3	後期	母集団とサンプル平均値の検定	仮説検定の目的と意義を理解し、母集団と サンプル平均値の検定を学ぶ。	大岩照宜
4	後期	2 つのサンプル平均値の検定	独立した 2 つ群を比較するためにサンプル 平均値の検定を学ぶ。	大岩照宜
5	後期	サイズの小さな 2 つのサンプル 平均値の検定	サンプルサイズの小さな群を比較する場合 のサンプル平均値の検定を学ぶ。	大岩照宜
6	後期	2 つのサンプルの比率の検定	アンケート結果の比較のためサンプルの比 率の検定を学ぶ。	大岩照宜
7	後期	感度・特異度とオッズ比	臨床検査の性格を決める指標の 1 つである 感度・特異度やオッズ比を学ぶ。	大岩照宜
8	後期	まとめと試験		大岩照宜
成績評価方法	定期試験を実施し評価する。(100 点)			
準備学習など	中学校・高等学校の数学で学んだ統計の基礎を確認しておきたい。			
留意事項				

学科・年次	作業療法科 1 学年
科目名	心理学
担当者	菅 吉基
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：なし

授業概要と目的
臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、臨床経験の豊富な講師が担当する。心理学とは、人の心の働きや行動を科学的に解明しようとする学問であり、認知・発達・社会・臨床などさまざまな領域から成り立っている。本講義では、心理学の全体像を概観すると同時に、心理学理論のうち、基本的で重要と思われるものを中心に学ぶことを目的とする。スクールカウンセラー経験を有する教員が、その経験を活かして授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「心理学とは」 一般目標 ①心理学の概要を学ぶ	「心理学とは」 到達目標 ① 理学の概要について説明できる	菅 吉基
2	後期	「知覚・学習・記憶」 一般目標 ①知覚について理解する ②学習について理解する ③記憶について理解する	「知覚・学習・記憶」 到達目標 ①知覚について説明できる ②学習について説明できる ② 憶について説明できる	菅 吉基
3	後期	「動機づけ・感情」 一般目標 ①動機づけについて理解する ②感情について理解する	「動機づけ・感情」 到達目標 ①動機づけについて説明できる ③ 情について説明できる	菅 吉基
4	後期	「パーソナリティ・知能」 一般目標 ①パーソナリティについて理解する ②知能について理解する	「パーソナリティ・知能」 到達目標 ①パーソナリティについて説明できる ②知能について説明できる	菅 吉基
5	後期	「思考・発達」 一般目標 ①思考について理解する ②発達について理解する	「思考・発達」 到達目標 ①思考について説明できる ②発達について説明できる	菅 吉基

6	後期	「人間関係・集団」 一般目標 ①人間関係について理解する ②集団について理解する	「人間関係・集団」 到達目標 ①人間関係について説明できる ②集団について説明できる	菅 吉基
7	後期	「精神的健康・カウンセリング」 一般目標 ①精神的健康について理解する ②カウンセリングについて理解する	「精神的健康・カウンセリング」 到達目標 ①精神的健康について説明できる ②カウンセリングについて説明できる	菅 吉基
8	後期	「まとめ」 一般目標 ①講義で学んだ内容について振り返り、対人援助を行う際の留意点を理解する	「まとめ」 到達目標 ①対人援助を行う際の留意点について説明できる	菅 吉基
成績評価方法		レポート課題（60%）、授業内小テスト（40%）合計 100 点 レポート課題は自己受容の程度により採点させていただきます。 A10 点 B7 点 C4 点 D1 点の 4 段階評価として、下記基準にて評価します。 A テーマについて行動・思考・感情についての十分な記載がなされた場合。 B テーマについて行動・思考・感情のいずれか 2 つのみ、もしくは十分な記載がない場合。 C テーマについて行動・思考・感情のいずれか 1 つのみ、もしくは表面的な記載の場合。 D テーマについて記載されているが、文章量が乏しく、自己内省の程度を判断できない場合。		
準備学習など		作業療法士・対人援助職にとって、他者の気持ちを理解することは、大切な技術になります。 他者理解を深めるために、自己理解を深めてください。 国家試験に向けて、過去問の対策も進めて頂ければ幸いです。 疑問がありましたら、どんなことでもご質問ください。		
留意事項		特になし		

学科・年次	作業療法科・1年次
科目名	教養学
担当者	野村 齊史
単位数（時間数）	1（15 時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	プリントを配布

授業概要と目的	
教養学では、当学園の仏教的思想に基づき 4 大宗教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教)の成り立ち、日本における暦と宗教の関係性等を学習します。ディベートとはアクティブラーニングの一つの手法で明確なルールのもと、肯定派と否定派に分かれ議論することをいいます。論題に対して、個人の意思に関わらず肯定か否定かが決まります。 目的 宗教学 ・ 4 大宗教の成り立ちと関係性を正確に説明できる。 ・ 日本における暦と宗教の関係性を 3 つ以上説明できる。 ディベート ・ 相手を説得させる論理だった思考で考えることが出来る。 ・ 肯定、否定側にランダムで分けられることで自身の主観を持たず客観的・多角的に物事に取り組むことが出来る。 ・ コミュニケーション能力で必要な自身の考え方に道筋を立てて堂々と説明できる。	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「 教養学 」 一般目標 4 大宗教の成り立ちと関係性を正確に理解する。	「 自他紹介・宗教学 」 到達目標 ユダヤ・キリスト・イスラム教の成り立ちを説明できる。	野村 齊史
2	前期	「 教養学 」 一般目標 4 大宗教の成り立ちと関係性を正確に理解する	「 宗教学 」 到達目標 小乗仏教と大乘仏教を理解できる。 日本における暦と宗教の関係性を説明できる。	野村 齊史
3	前期	「 教養学 」 一般目標 ディベートを理解して説明することが出来る	「 ディベート 」 到達目標 ディベートに必要なこと 3 つを説明することが出来る。(グループワーク)	野村 齊史

4	前期	「 教養学 」 一般目標 ディベートを理解して説明することが出来る	「 ディベート 」 到達目標 ディベートに必要なこと3つを説明することが出来る。(グループワーク)	野村 斉史
5	前期	「 教養学 」 一般目標 主観に囚われず論理的に物事を理解する。 他人を説得するための論理的思考を理解する	「 ディベート 」 到達目標 ものごとを肯定・否定側の両面から説明・対比することが出来る (グループワーク)	野村 斉史
6	前期	「 教養学 」 一般目標 主観に囚われず論理的に物事を理解する事が出来る。 他人を説得するための論理的思考が理解できる	「 ディベート 」 到達目標 ものごとを肯定・否定側の両面から説明・対比することが出来る (グループワーク)	野村 斉史
7	前期	「 教養学 」 一般目標 物事に対して主観ではなく客観的・多角的に比較することが出来る 主観に囚われない論理的思考による物事の説明が理解出来る	「 ディベート 」 到達目標 物事を客観的に捉え、比較し、考え方を論理的に説明する事が出来る (グループワーク)	野村 斉史
8	前期	「 教養学 」 一般目標 物事に対して主観ではなく客観的・多角的に比較することが出来る 主観に囚われない論理的思考による物事の説明が理解出来る	「 ディベート 」 到達目標 物事を客観的に捉え、比較し、考え方を論理的に説明する事が出来る (グループワーク)	野村 斉史
評価方法		ディベートの発表 (80%) ディベートのレポート (20%) 合計 100 点		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	作業療法科 1年次
科目名	レクリエーション学Ⅰ
担当者	安河内典子 天野順一郎
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	なし

授業概要と目的
健康運動指導士が教える様々なレクリエーション・アクティビティを介して患者や参加者に対して楽しみながら機能回復を行う方法を身につける。合わせて集団を指導する技能も習得する。また、演劇というアクティビティを通して感情表現、他者を演じる体験をし、自己理解・他者理解を深める。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「レクリエーションについて」 「集団指導」 介護予防の概要と、レクリエーションを行う上での集団指導の方法を学ぶ。	・集団プログラムの導入について適切な説明ができる。 ・集団に対する指導の「技術」を習得する。	安河内典子
2	通年	「アイスブレーキングについて」 「ストレッチング」 集団指導の導入としてのアイスブレーキングの方法と、ストレッチの種類・方法・効果を学ぶ。	・アイスブレーキングの意味・必要性・方法を説明できる。 ・ストレッチの種類・方法・効果を説明できる。 ・ストレッチの方法を自分で実践できる。	安河内典子
3	通年	「転倒予防について」 「転倒予防のためのレクリエーション」 介護になる原因としへの「転倒」の要因・予防法を学び転倒予防のための集団体操の技術を学ぶ。	・介護になる原因・転倒骨折を知り、「転倒予防」の必要性を習得する。 ・転倒予防のためのレクリエーションを自分で実践できる。	安河内典子
4	通年	「椅子を使う全身運動」 「プレゼンテーション」 全身を使った運動の目的・効果・種類を学び、椅子を使った全身運動の技術を学ぶ。	・全身運動へのアプローチ法を説明できる。 ・楽しく体を動かすためのわかりやすい指示を実践できる。 ・導入からクールダウンまでの流れを掴む。	安河内典子
5	通年	「認知症について」 「認知症予防レクリエーション」 認知症の種類・症状を理解し、予防のポイント・予防法としてのレクリエーションの方法を学ぶ。	・認知症の種類・症状の概要を説明できる。 ・認知症予防のポイントを説明できる。 ・認知症予防レクリエーションを自分で実践できる。	安河内典子

6	通年	「ヨガについてとヨガの体験」 ヨガの目的・効果・ポイントを学び、ヨガをレクリエーションプログラムに取り入れる方法を学ぶ。	・ヨガの目的・効果・ポイントを説明できる。 ・8 分間のプレゼンテーションへの準備を各自行う。	安河内典子
7	通年	「口腔機能向上レクリエーションのプレゼンテーション」 口腔機能の概要、口腔ケアの必要性・効果・口腔機能向上レクリエーションの方法を学ぶ。	・介護にならないための3つのポイントを説明できる。 ・口腔ケアの必要性・効果・口腔機能レクリエーションの方法を説明できる。 ・8 分間のプレゼンテーションを行うことができる。	安河内典子
8				
9				
10	通年	「レクリエーションのまとめと解説」 いままでの講義内容のまとめを行い、各プログラムの振り返り、確認とプレゼンテーションを行う。	・介護予防・アイスブレイキング・ストレッチ・全身運動・認知症予防・ヨガ・口腔ケア等の目的・方法を説明できる。 ・8 分間のプレゼンテーションを行うことができる。	安河内典子
11	通年	「まとめと試験」 筆記試験を通して、各回の講義内容を理解する。	・いままでの講義内容のポイントを理解できる。 ・8 分間のプレゼンテーションを行うことができる。	安河内典子
12	通年	「演劇の治療的応用」 演劇を作り上げることで、感情表現、他者を演じる体験をし、自己理解・他者理解を深める。	・演劇作品を作り上げるうえで自分の役割を遂行することができる。 ・自分の演技を客観的に振り返ることができる。 ・他者の演技を観て感想を述べることができる。	天野順一郎 山内太郎
13				
14	通年			
15				
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	Occupational Therapy ・1 年次
科目名	English I
担当者	Andrew David McKernon
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
学習方法	Students will improve their confidence and comprehension using English reading, writing and speaking skills.
教科書・参考書	Practical English through the Study of the Human Body Omsha

授業概要と目的
The purpose of this class is to introduce vocabulary and useful phrases about the human body and ways to communicate and help patients with their symptoms and injuries.

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	Course guide; pronunciation tips	Review of previous course content, Human Body Systems / Body parts etc.	McKernon
2	前期	Relevant vocabulary and useful phrases; Human Body Systems review	Review of Human Body Systems	McKernon
3	前期	Human Body Systems review Occupations	Review of Human Body Systems with additional vocabulary and useful phrases	McKernon
4	前期	Occupations and injury	Various occupations and common injuries	McKernon
5	前期	Follow-up questions; symptoms/injuries. Useful phrases for patient dialogues	Vocabulary and phrases / making follow-up questions for Doctor/Patient dialogues with partner	McKernon

6	前期	Doctor/Patient dialogue presentations	Students speak dialogues written with partner	McKernon
7	前期	Doctor/Patient dialogues presentations	Final presentations	McKernon
8	前期	Summary/ review Summary・TEST	Review of course main points Final written test	McKernon

績評価方法	Participation/presentation 50% Final written test 50%
準備学習など	Students will need a notebook, textbook and E-J →J-T dictionary
留意事項	Writing notes will be very important and doing your best to participate.

学科・年次	Occupational Therapy ・1 年次
科目名	English II
担当者	Andrew David McKernon
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
学習方法	Students will improve their confidence and comprehension using English reading, writing and speaking skills.
教科書・参考書	Practical English through the Study of the Human Body Omsa

授業概要と目的
The purpose of this class is to introduce vocabulary and useful phrases about the human body and ways to communicate and help patients with their symptoms and injuries.

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	Introductions; course guide; pronunciation tips	Preview of course content, beginning communication with patients	McKernon
2	前期	Relevant vocabulary and useful phrases; Human Body Systems	Beginning dialogues with patients and study of Human Body Systems	McKernon
3	前期	Human Body Systems	Study of human body parts and systems	McKernon
4	前期	Human Body Systems	Human body systems continued	McKernon
5	前期	Human Body Systems; Immune System/symptoms/injuries. Useful phrases for patient dialogues	Vocabulary and phrases for Doctor/Patient dialogues with partner	McKernon
6	前期	Doctor/Patient dialogue presentations	Students speak dialogues written with partner	McKernon

7	前期	Doctor/Patient dialogues presentations continued	Final presentations	McKernon
8	前期	Summary and review Summary・TEST	Course summary and review Final written Test	McKernon

績評価方法	Participation/presentation 50% Final written test 50%
準備学習など	Students will need a notebook, textbook and E-J –J-T dictionary
留意事項	Writing notes will be very important and doing your best to participate.

学科・年次	作業療法科・1 学年
科目名	社会学
担当者	山口 宏
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義と 1 回のみグループワーク
教科書・参考書	教科書は使用せず、参考書は毎回の授業で紹介する。

授業概要と目的
リハビリ業務で様々な世代・背景の人々と接していくなかで、その人々の人生の社会的な背景を深く理解できるようにする。また家族・貧困・差別などいろいろな社会問題を考えることによって、医療・福祉が置かれた現代社会の大きな見取り図を認識できるようにする。さらに毎回の授業内での記述を通して、自らの考えを素早く展開し、まとめる力を身につける。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「社会学ガイダンス」 社会学がどういうものか、概略を知る。	「常識を疑う視角を感じ取る」 ・ 昔の出来事・事件をいくつか見ていくなかで、価値観の違いを具体的に記述できるようにする。 「現代のつながりのかたちをとらえる」 ・ これから具体的テーマを考えていくための予備知識として、地域のつながりを作る新たな取り組みを挙げられるようにする。	山口宏

2	前期	「戦後社会・文化史①」 終戦から高度成長期の時代変化を押さえる。	「終戦時の日常の社会状況を知る」 ・映像も通して終戦後の諸側面を見ることで、生活を具体的に記述できるようにする。 「高度成長期の生活と流行を知る」 ・集団就職とは何かを語れるようにし、現在の高齢層が生きてきた時代の流行を複数挙げられるようにする。	山口宏
3	前期	「戦後社会・文化史②」 1960年代のカウンターカルチャーを知る。	「戦後の社会運動の流れを理解する」 ・学生運動とその暴力的変質をたどることを通して、現在との違いを感じ、具体的に記述できるようにする。	山口宏
4	前期	「戦後社会・文化史③」 1970年代の感覚変化と、豊かさのなかで現われる社会問題を知る。	「1970年代の感覚変化を知る」 ・若者文化の流行を通して、1960年代との違いと現在との違いをともに記述できるようにする。 「豊かさの背景にある社会問題を知る」 ・公害問題における地域社会の複雑な対立関係を、説明できるようにする。	山口宏
5	前期	「戦後社会・文化史④」 1980年代の光と影を押さえる。	「バブル経済の仕組みと影を考える」 ・1980年代の狂騒とともに、バブル経済の盛衰を見ることで、バブルの仕組みとマイナス面について説明できるようにする。	山口宏
6	前期	「戦後社会・文化史⑤」 1990年代から現在への流れを理解する。	「1990年代の心理主義を理解する」 ・心理の専門家や心をめぐるテーマが前景に出てくる社会変化を理解し、自分なりの意見が書けるようにする。 「コミュニケーションの敏感さを考える」 ・ほめる研修など、現在のコミュニケーションの特徴をとらえ、自分なりの意見が書けるようにする。	山口宏
7	前期	「家族をめぐる諸問題」 家族の歴史的変化と現在の課題を理解する。	「戦後家族の変化を理解する」 ・グラフデータを読み込んで、それを言葉で表現できるようにする。 「現代家族の課題を理解する」 ・虐待や孤立などさまざまな状況を踏まえて、多様なつながりの可能性を具体的に述べられるようにする。	山口宏
8	前期	「貧困と社会的排除」 貧困の多面性を理解する。	「貧困の多様な側面を理解する」 ・貧困が健康やコミュニケーションなど様々な面に関わってくることを理解し、自分なりの見解を表現できるようにする。 ・それに対する様々な取り組みを紹介し、その可能性について意見を表現できるようにする。	山口宏
9	前期	「宗教と社会」 世界宗教の特徴と、近年の日本での問題を理解する。	「世界的宗教の特質を概観する」 ・医療現場などで多様な宗教の人に触れることを想定しながら、諸宗教の特質を表現	山口宏

			できるようにする。 「近年の日本社会と宗教」 ・オウムの問題など取り上げながら、新宗教に惹かれる心性を理解し、具体的な対応策も自分なりに述べられるようにする。	
10	前期	「民主主義の危うさと可能性」 強力な指導者を求める危うさと、民主主義の活性化の可能性を考える。	「独裁的指導者を招く心性を理解する」 ・ナチスを生んだ背景や、社会心理実験的な映像も使いつつ、強い指導者に従いたくなる心的機制を理解し、意見を述べられるようにする。 「民主主義の可能性」 ・政治への関心をいかに高め、声を届けられるか、諸事例を見ながら考え、医療・福祉職とも重ねて意見を述べられるようにする。	山口宏
11	前期	「差別のとらえ方」 日常のイメージから差別を考える。	「日常で作られるイメージから考える」 ・高齢者や障害者をめぐって、いつの間にかどのようなイメージが作られ、押しつけられやすいかを考え直し、表現できるようにする。 「複数の問題の絡まり合いを考える」 ・複数の要因が重なった場合の差別問題の難しさを理解し、具体的に記述できるようにする。	山口宏
12	前期	「優生思想の問題」 優生思想の歴史と、現在にもつながる問題を考える。	「優生思想の歴史を理解する」 ・戦争と障害者といったテーマも含めながら、過去の優生思想の実践を押さえ、整理して記述できるようにする。 「現在の優生思想と生命倫理を考える」 ・健康や社会的コストの論理を推し進めすぎる際の危うさを考え、意見を述べられるようにする。	山口宏
13	前期	「日本のなかの外国人」 外国人労働者と難民申請の現状を理解する。	「外国人労働者の現状を理解する」 ・介護の現場でも多くなる外国人労働者の状況や、技能実習の問題など、現状についてまとめ、意見も述べられるようにする。 「難民受け入れの現状を理解する」 ・難民受け入れの少なさについて、背景を理解した上で意見を述べられるようにする。	山口宏
14	前期	「グループワーク」	・これまで扱ったテーマを絡めながら、10個程度の問題に対して、話し合っそれぞれ答えを発表する。	山口宏

15	前期	「まとめ」 これまでのテーマをつなげながら、振り返る。	・戦後文化史や家族、貧困問題などで、これまでの補足として話と映像を加え、全体的なまとめも含めた意見を述べられるようにする。	山口宏
成績評価方法		授業態度（授業参加度）10 点 授業内での記述 90 点 合計 100 点		
準備学習など		毎回のテーマをシラバスで確認しながら、意見が書きやすいよう関心をもって、テーマに関わる話題・問題など調べておいてください。		

学科・年次	作業療法科・1 年次
科目名	国語学
担当者	勝見ひろみ
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	サブノート（毎回配布）

授業概要と目的
臨床現場では、患者の状況や様子を的確に記録し、多職種と情報共有することが求められる。また、業務の特性上、医療・医学に精通し、思考過程・考え方の道筋などを的確に表現し、考察できることが重要となる。その素地となるのが、単なる感想文や作文ではなくレポート等が記述できる能力である。本講義では、レポート等の記述様式を身につけるための基礎を学び、簡単な練習を通して、臨床実習に役立つ記述力を身につけることを目標とする。 その他、臨床実習等で、社会人のマナーとして必要とされる敬語法や手紙の書き方を修得する。 さらに、各種のテキストを読み解くための読解力を身につけることを目標とする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「国語学オリエンテーション」 「読解力を身につける」 ・作業療法士にもとめられる国語力について理解する。 ・文章を正しく読み取る力を身につける。	「リハビリテーション従事者に求められる国語力」「読解のための基礎知識」 ・文章を読むこと、書くこと、適切な話し方ができることがなぜ必要なのかを述べるができる。 ・文構造、指示語、接続語などを正しくとらえ、文章を読むことができる。	勝見ひろみ

2	前期	「くだけた表現・ととのった表現」 ・臨床現場に必要な記述力について理解する。	「話し言葉と書き言葉」「常体と敬体」 ・話し言葉と書き言葉を使い分けることができる。 ・常体と敬体を使い分けることができる。	勝見ひろみ
3	前期	「表現力を磨く」 ・文章を正しく書くための力を身につける。	「記述に必要な基本を身につける」 ・主述の対応、係り受け、接続語などを正しく使い、文章を書くことができる。	勝見ひろみ
4	前期	「敬語の使い方（基礎編）」 ・敬語の基本的な考え方や具体的な使い方について理解する。	「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」 ・三種類の敬語を使い分けることができる。	勝見ひろみ
5	前期	「敬語の使い方（実践編）」 ・臨床実習等、実際の場面で必要とされる敬語法を身につける。	「ロールプレイ」 ・実際の場面で、正しい敬語を使うことができる。	勝見ひろみ
6	前期	「電話のマナー」「個人情報の取り扱い方」 ・社会人として必要な電話のマナーを理解する。 ・個人情報を扱う際の留意点を理解する。	「電話のかけ方・受け方」「個人情報 メモ～Web」 ・適切な敬語を用いながら、電話をかけた受けたりできる。 ・場合ごとの個人情報を扱う際の注意点を述べるができる。	勝見ひろみ
7	前期	「お礼状の書き方」 ・作業療法科の学生として、外部にお礼状を出す際のマナーについて理解する。	「お礼状の作成」（表書きを含む） ・基本的な型を用いた書き方ができる。 ・実際の個人的な体験をお礼状の中で表現できる。	勝見ひろみ
8	前期	「まとめ」 ・これまでの学習内容についてまとめ、レポート記述の基本、社会人のマナー、文章読解の基本について理解する。	「まとめと試験」 ・これまでの学習内容について、知識を整理し、文章能力、会話能力が向上する。	勝見ひろみ
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 授業課題の取り組み（30%）筆記試験（70%）で評価する。 60%以上を合格とする。		
準備学習など				

学科・年次	作業療法科 1年次
科目名	美術学
担当者	山附貴世香
単位数（時間数）	1（15時間）
学習方法	演習
教科書・参考書	

授業概要と目的
現役イラストレーターの教員がその経験を活かし、作業療法の実習現場における美術学を指導する。授業的には美術学を通して「もの（対象物）」をよく「見る（観察）」ことで新たな発見、感動を通して考察することで作品を完成させ、創造する喜びを味わう。

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「静物スケッチ」 「物（対象物）」を深く観察し、 発見・感動を表現する。	「静物スケッチ」 身近なものを深く観察し、スケッチブック に鉛筆でスケッチする。絵具を使って色付 けをし、完成させることができる。	山附貴世香
2	後期	「平面構成」 絵具の色使いまたは構成で「明」、 「暗」を表現する。 また絵具の混色、塗り方を理解す る。	「平面構成」 15 cm×15 cmの正方形の中に自分のおメー ジした「明」・「暗」を平面構成で絵の具を 使って表現することができる。	山附貴世香
3	後期	「Tシャツのデザインを考える」 オリジナルTシャツのデザイン、 完成までの手順を考える。またそ ののために必要な技法も考える。	「Tシャツのデザインを考える」 ・Tシャツのデザインを考えることがで きる。 ・完成までの手順、必要な技法を考えるこ とができる。 ・完成図をもとに作業を行うことができる。	山附貴世香
4	後期	「完成図をもとにオリジナルT シャツを制作する。」 制作、完成までの時間配分を考え て制作を行う。	「完成図をもとにオリジナルTシャツを制 作する。」 ・必要な技法を考え、工夫して使用するこ とができる。 ・完成図をもとに作業を行うことができる。	山附貴世香

5	後期	「オリジナルTシャツの制作」 完成図をもとに製作を行う。	・完成図（自分のイメージ）通りに進行しているかを確認することができる。 ・必要な技法を考え、工夫して使用することができる。	山附貴世香
6	後期			
7	後期			
8	後期	「オリジナルTシャツの完成」 Tシャツを完成させ、授業を受けての反省・感想をレポートにして提出する。	「オリジナルTシャツの完成」 ・完成したTシャツの撮影を行うことができる。 ・授業を受けての反省・感想をレポートにして提出することができる。	山附貴世香
成績評価方法		提出レポート：90% 授業態度：10% 合計 100 点		
準備学習など		オリジナルTシャツのデザインを考えておくこと。（機会があればTシャツのデザインを気に留めておくこと）		
留意事項				

学科・年次	1 年・作業療法科
科目名	解剖学 I
担当者	桑原 裕子
単位数（時間数）	2 単位（60 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 医学書院 プロメテウス 解剖学コアアトラス 医学書院

授業概要と目的
医療を目指す者にとって必要な人体の構造を、肉眼レベルから微細な組織レベルまで学び、3次元の立体的構造を理解できることを目的とする。 解剖学 I ではリハビリテーションに関する他教科の学習内容を理解するために必要な骨・関節および筋についての基本的知識を習得し、その全体像を理解する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「人体の概観、方向用語」 ① 人体の概観と解剖学用語を理解する。 ② 人体解剖学における方向用語を理解する。	「人体の概観、方向用語」 ① 解剖学用語を用いて人体の概観を説明できる。 ② 方向用語を用いて人体の部位を説明できる。	桑原裕子
2	前期	「人体の構成：細胞から器官系まで」 ① 細胞の微細構造を機能と関連して理解する。 ② 人体の階層性を理解する。	「人体の構成：細胞から器官系まで」 ① 細胞膜、細胞小器官および核の構造を説明できる。 ② 四大組織の種類と器官との関係を説明できる。 ③ 複数の器官が機能的に連携して器官系を構成することを理解する。	桑原裕子
3	前期	「四大組織」 ① 上皮組織の種類や存在部位を理解する。 ② 結合(支持)組織の種類や存在部位を理解する。 ③ 筋組織の種類や存在部位を理解する。 ④ 神経組織を構成する細胞の種類と機能を理解する。	「四大組織」 ① 上皮組織の種類や存在部位を説明できる。 ② 結合(支持)組織の種類や存在部位を説明できる。 ③ 筋組織の種類や存在部位を説明できる。 ④ 神経組織を構成する細胞の種類と機能を説明できる。	桑原裕子
4	前期	「骨学総論」 ① 軸骨格と付属骨格を理解する。 ② 長管骨の構造を理解する。 ③ 骨の発生を理解する。	「骨学総論」 ① 軸骨格と付属骨格を説明できる。 ② 長管骨の構造を説明できる。 ③ 軟骨内骨化と膜内骨化を説明できる。	桑原裕子
5	前期	「顔面頭蓋」 ① 顔面頭蓋を構成する骨を理解する。 ② 副鼻腔を理解する。 ③ 眼窩を構成する骨を理解する。	「顔面頭蓋」 ① 顔面頭蓋を構成する骨を説明できる。 ② 副鼻腔を説明できる。 ③ 眼窩を構成する骨を説明できる。	桑原裕子
6	前期	「脳頭蓋」 ① 脳頭蓋を構成する骨を理解する。 ② 頭蓋にある脈管や神経の通路を理解する。 ③ 縫合の種類と部位を理解する。 ④ 泉門と位置を理解する。	「脳頭蓋」 ① 脳頭蓋を構成する骨を説明できる。 ② 頭蓋にある孔とそこを通る脈管や神経を説明できる。 ③ 冠状縫合、矢状縫合、ラムダ縫合の部位を説明できる。 ④ 大泉門と小泉門の位置を説明できる。	桑原裕子
7	前期	「脊柱の構成および頸椎」 ① 脊柱の弯曲を理解する。 ② 椎骨の一般構造を理解する。 ③ 頸椎の構造的特徴を理解する。	「脊柱の構成および頸椎」 ① 脊柱の一次弯曲と二次弯曲を機能と関連付けて説明できる。 ② 椎体、椎弓および突起を説明できる。 ③ 環椎と軸椎の構造を説明できる。	桑原裕子
8	前期	「胸椎・腰椎・仙骨及び尾骨」 ① 胸椎の部位による特徴を理解する。	「胸椎・腰椎・仙骨及び尾骨」 ① 上位から下位胸椎の突起傾きや椎体	桑原裕子

		② 腰椎の特徴を理解する。 ③ 仙骨の特徴を理解する。	の変化を説明できる。 ② 腰椎の突起の種類を説明できる。 ③ 仙骨稜について説明できる。	
9	前期	「胸郭」 ① 胸郭の構成を理解する。 ② 肋骨の胸椎との連結を理解する。 ③ 肋骨の種類を胸骨との連結で理解する。	「胸郭」 ① 胸郭を構成する骨を説明できる。 ② 肋骨の胸椎との連結部位を説明できる。 ③ 真肋と仮肋を説明できる。	桑原裕子
10	前期	「上肢帯」 ① 上肢帯を構成する骨を理解する。 ② 肩甲骨や鎖骨の特徴を理解する。	「上肢帯」 ① 上肢帯を構成する骨を説明できる。 ② 肩甲骨と鎖骨の筋の付着部や連結部を説明できる。	桑原裕子
11	前期	「自由上肢骨」 ① 上腕骨、橈骨、尺骨の構成と特徴を理解する。 ② 手根骨、中手骨、指骨の構成と特徴を理解する。	「自由上肢骨」 ① 上腕骨、橈骨、尺骨の筋の付着部や連結部を説明できる。 ② 手根骨、中手骨、指骨の筋の付着部や連結部を説明できる。	桑原裕子
12	前期	「下肢帯の骨：寛骨」 ① 腸骨、坐骨、恥骨の特徴を理解する。	「下肢帯の骨：寛骨」 ① 腸骨、坐骨、恥骨の筋の付着部や連結部を説明できる。	桑原裕子
13	前期	「自由下肢骨」 ① 大腿骨、脛骨、腓骨、膝蓋骨の特徴を理解する。 ② 足根骨、中足骨および趾骨の特徴を理解する。	「自由下肢骨」 ① 大腿骨、脛骨、腓骨の筋の付着部や連結部を説明できる。 ② 足根骨、中足骨および趾骨の連結部を説明できる。	桑原裕子
14	前期	「関節靭帯の総論」 ① 関節の一般構造と付属装置を理解する。 ② 関節の形態的分類を理解する。 ③ 関節の感覚受容器を理解する。	「関節靭帯の総論」 ① 関節軟骨、関節包および関節半月、関節円板、関節唇、滑液包を説明できる。 ② 関節の形態的分類と例を説明できる。 ③ 関節の感覚受容器を刺激と関連付けて説明できる。	桑原裕子

15	前期	「頭蓋骨の連結」 ① 顎関節の構造を理解する。 「脊柱および脊柱と頭蓋の連結」 ① 椎体間の連結を理解する。 ② 椎弓間の連結を理解する。 ③ 脊柱と頭蓋の連結を理解する。	「頭蓋骨の連結」 ① 下顎骨と関節円板との間の蝶番関節と関節円板と下顎窩との間の平面関節からなる顎関節を説明できる。 「脊柱および脊柱と頭蓋の連結」 ① 椎体間の椎間円板や前縦靱帯、後縦靱帯で説明できる。 ② 椎弓間の椎間関節や黄色・棘間・項靱帯・棘上靱帯を用いて説明できる。 ③ 環椎後頭関節、正中環軸関節、外側環軸関節を説明できる。 ④ 環椎後頭膜、蓋膜、環椎十字靱帯を説明できる。	桑原裕子
16	前期	「胸郭の連結」 ① 肋骨と胸椎の連結を理解する。 ② 肋骨・肋軟骨と胸骨との連結を理解する。	「胸郭の連結」 ① 肋椎関節や肋肋関節を説明できる。 ② 肋骨肋軟骨関節と軟骨間関節を説明できる。	桑原裕子
17	前期	「上肢帯の連結」 ① 上肢帯の連結を理解する。	「上肢帯の連結」 ① 胸鎖関節および胸鎖靱帯、肋鎖靱帯、鎖骨間靱帯を説明できる。 ② 肩鎖関節および肩鎖靱帯、烏口鎖骨靱帯を説明できる。	桑原裕子
18	前期	「自由上肢骨の連結」 ① 肩関節を理解する。 ② 肘関節を理解する。 ③ 橈骨と尺骨の連結を理解する。 ④ 手の連結を理解する。	「自由上肢骨の連結」 ① 肩関節および烏口肩峰・烏口上腕・関節上腕・上腕横靱帯を説明できる。 ② 回旋筋腱板の構成を説明できる。 ③ 腕尺関節、腕橈関節、上橈尺関節、下橈尺関節および前腕骨間膜、外側・内側側副靱帯、橈骨輪状靱帯、方形靱帯を説明できる。 ④ 橈骨手根関節、手根間関節、手根中央関節、手根中手関節および母指の手根中手関節を説明できる。 ⑤ 中手指節関節、指節間関節を説明できる。	桑原裕子
19	前期	「下肢帯の連結」 ① 下肢帯の連結を理解する。 「自由下肢骨の連結」 ① 股関節を理解する。 ② 膝関節を理解する。 ③ 脛骨と腓骨の連結を理解する。 ④ 足の連結を理解する。 ⑤ 足弓を理解する。	「下肢帯の連結」 ① 恥骨結合と仙腸関節を説明できる。 ② 閉鎖膜、鼠径靱帯を説明できる。 「自由下肢骨の連結」 ① 股関節、大腿骨頭靱帯、腸骨・恥骨・坐骨大腿靱帯および腸脛靱帯を説明できる。 ② 脛骨大腿靱帯、膝蓋大腿靱帯および外側・内側側副靱帯、前・後十字靱帯、膝蓋靱帯、外側・内側半月を説明できる。	桑原裕子

			③ 脛腓関節、下腿骨間膜、脛腓靱帯結合を説明できる。 ④ 距腿関節、距骨下関節、巨踵舟関節、踵立方関節、楔舟関節、楔立方関節、足根立方関節を説明できる。 ⑤ 中足間関節、中足趾節関節、趾節間関節を説明できる。 ⑥ 横・外側縦・内側縦足弓を説明できる。	
20	前期	「筋系総論」 ① 筋の微細構造を理解する。 ② 主な筋と筋の隙間を理解する。 ③ 筋の補助装置を理解する。 ④ 筋紡錘と腱紡錘を理解する。	「筋系総論」 ① 骨格筋、心筋および平滑筋の微細構造を説明できる。 ② 骨格筋線維と筋膜を説明できる。 ③ 筋のつくるくぼみや溝を通る血管や神経を説明できる。 ④ 浅筋膜、筋間中隔、支帯、滑液包、腱鞘、筋滑車、種子骨を説明できる。 ⑤ 筋紡錘と腱紡錘の構造を説明できる。	桑原裕子
21	前期	「頭頸部の筋」 ① 表情筋と咀嚼筋を理解する。 ② 頭部を支え、頭部の向きを変える浅頸筋および側頸筋を理解する。 ③ 開口に関与する筋を理解する。 ④ 深頸筋の椎前筋群および斜角筋群を理解する。	「頭頸部の筋」 ① 表情筋と咀嚼筋の起始・停止および神経支配を説明できる。 ② 広頸筋、胸鎖乳突筋の起始・停止および神経支配を説明できる。 ③ 舌骨上筋群、舌骨下筋群の名前、起始・停止および神経支配を説明できる。 ④ 椎前筋群および斜角筋群の名前、起始・停止および神経支配を説明できる。	桑原裕子
22	前期	「胸部および腹部の筋」 ① 胸部の筋の起始停止および神経支配を理解する。 ② 腹部の筋の起始停止および神経支配を理解する。	「胸部および腹部の筋」 ① 大胸筋、小胸筋、鎖骨下筋、前鋸筋、外肋間筋、内肋間筋、胸横筋、横隔膜の起始停止および神経支配を説明できる。 ② 腹直筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋および腰方形筋の起始停止および神経支配を説明できる。	桑原裕子
23	前期	「背部の筋」 ① 脊柱と上肢あるいは上肢帯をつなぎ、上肢の運動に関与する背部の浅層筋群を理解する。 ② 脊柱の運動と安定に関与する深背筋群を理解する。	「背部の筋」 ① 僧帽筋、広背筋、小菱形筋、大菱形筋および肩甲挙筋の起始停止および神経支配を説明できる。 ② 棘肋筋群、固有背筋群、後頭下筋群と後頭下三角を説明できる。	桑原裕子

24	前期	「上肢帯の筋」 ① 肩の運動に関与する筋群を理解する。 ② 回旋筋腱板を理解する。	「上肢帯の筋」 ① 三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋、大円筋の起始、停止および神経支配を説明できる。 ② 回旋筋腱板の構成と意義を説明できる。	桑原裕子
25	前期	「上腕の筋」 ① 肩と肘の運動に関与する筋を理解する。	「上腕の筋」 ① 上腕二頭筋、烏口腕筋、上腕筋の起始、停止および神経支配を説明できる。 ② 上腕三頭筋、肘筋の起始、停止および神経支配を説明できる。	桑原裕子
26	前期	「前腕と手の筋」 ① 前腕と手根や指の運動に関与する筋の起始・停止および神経支配を理解する。	「前腕と手の筋」 ① 前腕の屈筋および伸筋の起始、停止および神経支配を説明できる。 ② 手の筋の起始、停止および神経支配を説明できる。	桑原裕子
27	前期	「下肢帯の筋」 ① 立位時の股関節の安定に寄与する内寛骨筋群を理解する。 ② 股関節の運動に関与する外寛骨筋群を理解する。	「下肢帯の筋」 ① 腸腰筋の起始、停止および神経支配を説明できる。 ② 殿筋群および外旋筋群の起始、停止および神経支配を説明できる。	桑原裕子
28	前期	「大腿の筋」 ① 股関節と膝関節の運動に関与する大腿の伸筋や屈筋の起始、停止および神経支配を理解する。	「大腿の筋」 ① 縫工筋と大腿四頭筋の起始、停止および神経支配を説明できる。 ② 大腿の内転筋群の起始、停止および神経支配を説明できる。 ③ 大腿の屈筋群(ハムストリングス)の起始、停止および神経支配を説明できる。 ④ 大腿の二関節筋を説明できる。	桑原裕子
29	前期	「下腿と足の筋」 ① 足関節および趾の運動に関与する筋を理解する。	「下腿と足の筋」 ① 下腿の伸筋群、屈筋群および腓骨筋群の起始、停止および神経支配を説明できる。 ② 足底と足背の筋群の起始、停止および神経支配を説明できる。	桑原裕子
30	前期	「解剖学Ⅰのまとめ」	「解剖学Ⅰのまとめ」	桑原裕子
成績評価方法	科目試験を80%、小テストを20%			
復習について	① 小テスト課題(解答付き国家試験過去問)を復習に使ってほしい。 ② 豊富な図が記載されている『プロメテウスの解剖学』は自宅学習に大いに利用してほしい。			
講義に際して	些細なことでも、気軽に質問してほしい。 尚、講義中の携帯の使用、居眠り、授業に関係ないおしゃべりは厳重に注意する。			

学科・年次	1 年・作業療法科
科目名	解剖学Ⅱ
担当者	桑原裕子
単位数（時間数）	2 単位(60 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 医学書院 プロメテウス 解剖学コアアトラス 医学書院

授業概要と目的
医療を目指す者にとって必要な人体の構造を、肉眼レベルから微細な組織レベルまで学び、3次元の立体的構造を理解できることを目的とする。 解剖学Ⅱではリハビリテーションに関する他教科の学習内容を理解するために必要な神経系、循環器系および内臓学についての基本的知識を習得し、その全体像を理解する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「神経学総論」 ① 神経系の区分と構成を理解する。 ② ニューロンの構造とグリアの種類を理解する。 ③ 神経線維の種類を機能と関連付けて理解する。 ④ 髄膜と脳室系を理解する。	「神経学総論」 ①ニューロンの構造とグリアの種類を機能と関連して説明できる。 ②中枢神経系における灰白質、白質、網様体を説明できる。 ③末梢神経系である体性神経系と自律神経系に属する神経線維の機能を説明できる。 ④硬膜、クモ膜、軟膜およびクモ膜下腔を説明できる。 ⑤脳室と髄液の循環を説明できる。	桑原裕子
2	後期	「脊髄」 ① 脊髄の全体像を理解する。 ② 脊髄内部構造の特徴を理解する。	「脊髄」 ①頸膨大、腰膨大、終糸および馬尾を説明できる。 ②頸髄、胸髄、腰髄および仙髄の内部構造の特徴を説明できる。	桑原裕子
3	後期	「脳幹」 ① 脳幹の位置と神経核を理解する。 ② 脳幹にあると出入りする脳神経を理解する。 ③ 脳幹と小脳の連絡路を理解する。	「脳幹」 ①中脳、橋、延髄にある神経核を説明できる。 ②中脳、橋、延髄に出入りする脳神経を説明できる。 ③上・中・下小脳脚を説明できる。	桑原裕子

4	後期	「小脳・間脳」 ① 小脳の発生学的機能的な構造を理解する。 ② 小脳の内部構造を理解する。 ③ 間脳の構造を理解する。	「小脳・間脳」 ①小脳の半球、虫部、中間帯を系統発生的(原小脳、古小脳、新小脳)に機能と関連付けて説明できる。 ②小脳の神経核を説明できる。 ③視床と視床下部の位置と主な神経核を機能と関連付けて説明できる。	桑原裕子
5	後期	「終脳（大脳半球）」 ① 終脳の溝と回による区分と領域を理解する。 ② 大脳皮質における機能の局在を理解する。 ③ 大脳髄質における白質の神経線維の種類を理解する。 ④ 大脳基底核の構成を理解する。	「終脳（大脳半球）」 ①終脳の区分と領域を機能と関連付けて説明できる。 ②大脳皮質にある中枢の局在を説明できる。 ③交連線維、連合線維、投射線維を説明できる。 ④主要な大脳基底核を説明できる。	桑原裕子
6	後期	「脊髄神経」 ① 脊髄神経の基本的構造を理解する。 ② 皮膚の神経支配領域を理解する。 ③ 主な頸神経を理解する。 ④ 上肢の筋を支配する腕神経叢を理解する。 ⑤ 体幹の筋を支配する脊髄神経を理解する。 ④ 下肢の筋を支配する腰神経叢を理解する。 ⑤ 頭部と頸部の主な筋を支配する脊髄神経を理解する。	「脊髄神経」 ① 前根、後根、前枝および後枝を説明できる。 ② 皮節(乳頭部、臍部、鼠径部)を説明できる。 ③ 頸神経ワナ、横隔神経を説明できる。 ④ 上肢の筋を支配する筋皮神経、尺骨神経、腋窩神経、橈骨神経および正中神経を説明できる。 ⑤ 肋間神経の枝と分布を説明できる。 ⑥ 閉鎖神経、大腿神経、坐骨神経の走行と支配する筋を説明できる。 ⑦ 頭部と頸部の主な筋を支配する脊髄神経を説明できる。	桑原裕子
7	後期	「脳神経 1」 ① 脳神経の種類と機能を理解する。 ② 嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経の機能と分布を理解する。	「脳神経 1」 ① 脳神経の種類と機能を説明できる。 ② 嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経の機能と分布を説明できる。	桑原裕子
8	後期	「脳神経 2」 ① 三叉神経、外転神経、顔面神経、内耳神経の機能と分布を理解する。 ② 舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経の機能と分布を理解する。	「脳神経 2」 ① 三叉神経、外転神経、顔面神経、内耳神経の機能と分布を説明できる。 ② 舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経の機能と分布を説明できる。	桑原裕子
9	後期	「循環系総論：血管の構造」 ① 血管の種類と構造について理解する。 ② 肺循環と体循環の構成を理解する。	「循環系総論：血管の構造」 ① 血管の種類を構造的特徴と関連付けて説明できる。 ③ 肺循環と体循環の循環経路を説明できる。	桑原裕子

10	後期	「心臓」 ① 心臓の胸腔内での位置を理解する。 ② 心房と心室に出入りする血管を理解する。 ③ 弁の種類と構造を理解する。 ④ 心臓の壁の構造を理解する。 ⑤ 刺激伝導系を理解する。 ⑥ 心臓を支配する神経を理解する。 ⑦ 心臓を養う血管と分布を理解する。	「心臓」 ① 心底と心尖部の胸腔内での位置と心軸の傾きを説明できる。 ② 心房や心室へ出入りする血管を血液の循環経路とともに説明できる。 ③ 弁の種類と位置および構造的特徴を説明できる。 ④ 心臓の壁の構造を部位による特徴で説明できる。 ⑤ 刺激伝導系における興奮伝導経路と興奮頻度および自律神経との関連を説明できる。 ⑥ 心臓に分布する血管の名前と分布域を説明できる。	桑原裕子
11	後期	「主な大動脈」 ① 上行大動脈、大動脈弓、胸大動脈および腹大動脈の走行を位置とともに理解する。 「頭頸部に分布する動脈系」 ① 大動脈弓から頭頸部と上肢に分布する主な動脈を理解する。 ② 大脳動脈輪の構成と前・中・後大脳動脈の分布域を理解する。	「主な大動脈」 ① 上行大動脈、大動脈弓、胸大動脈および腹大動脈の走行を位置とともに説明できる。 「頭頸部に分布する動脈系」 ① 大動脈弓から頭頸部と上肢に分布する鎖骨下動脈、腕頭動脈、総頸動脈を順に説明できる。 ⑦ 大脳動脈輪の構成と前・中・後大脳動脈の分布域を説明できる。	桑原裕子
12	後期	「顔面に分布する動脈系」 ① 顔面と頭部で脈を診ることのできる動脈を理解する。 「上肢に分布する血管系」 ① 上肢に分布する動脈の走行を理解する。	「顔面に分布する動脈系」 ① 脈を診ることのできる浅側頭動脈、顔面動脈の触知部位を説明できる。 「上肢に分布する血管系」 ① 鎖骨下動脈、腋窩動脈、上腕動脈、橈骨動脈および尺骨動脈の走行を順に説明し、脈の触知部位も説明できる。	桑原裕子
13	後期	「胸大動脈や腹大動脈からの分枝」 ① 胸壁と腹壁に分布する動脈を理解する。 ② 胸腹腔内の臓器に分布する動脈を理解する。	「胸大動脈や腹大動脈からの分枝」 ① 肋間動脈、肋下動脈、下横隔動脈、腰動脈を説明できる。 ② 食道動脈、気管支動脈、腹腔動脈、上・下腸間膜動脈、腎動脈、精巣(卵巣)動脈に分布する動脈を説明できる。	桑原裕子
14	後期	「下肢に分布する動脈」 ① 下肢に分布する動脈を順に理解する。	「下肢に分布する動脈」 ① 総腸骨動脈、外腸骨動脈、大腿動脈、膝窩動脈、前・後脛骨動脈を順に説明できる。	桑原裕子

15	後期	「静脈系の特徴」 ① 動脈と静脈の構造的違いを理解する。 ③ 動脈に伴行しない皮静脈を理解する。	「静脈系の特徴」 ① 静脈と動脈の構造的違いを機能と関連付けて説明できる。 ② 外頸静脈、胸腹壁静脈、浅腹壁静脈、浅腸骨回旋静脈、および撓側皮静脈、尺側皮静脈、肘正中皮静脈、大・小伏在静脈を説明できる。	桑原裕子
16	後期	「静脈系固有の血管系」 ① 硬膜静脈洞を理解する。 ② 門脈系を理解する。 ③ 奇静脈系を理解する。	「静脈系固有の血管系」 ① 硬膜静脈洞の構造と内頸静脈との関連を説明できる。 ② 門脈系の構成と側副路を説明できる。 ③ 奇静脈系の構成と走行を説明できる。	桑原裕子
17	後期	「リンパ系」 ① リンパの本幹と分布領域を理解する。 「胎児の血液循環系」 ① 胎児期の循環経路を理解する。 ② 出生後の遺存物を理解する。	「リンパ系」 ① リンパの本幹と分布領域を説明できる。 「胎児の血液循環系」 ① 動脈管、卵円孔、臍静脈、静脈管および臍動脈の位置と生後の遺存物を説明できる。 ② 出生後の動脈管索、卵円窩、静脈管索、肝円索および臍帯を説明できる。	桑原裕子
18	後期	「呼吸器系：鼻腔から喉頭」 ① 鼻腔の構造を理解する。 ② 咽頭の構造を理解する。 ③ 喉頭を構成する軟骨を理解する。 ④ 喉頭の発声器の構造を理解する。	「呼吸器系：鼻腔から喉頭」 ① 鼻甲介、鼻道と副鼻腔や耳管との連絡を説明できる。 ② ワルダイエルの咽頭輪を説明できる。 ③ 喉頭を構成する軟骨の種類を説明できる。 ④ 前庭ヒダと声帯ヒダを説明できる。	桑原裕子
19	後期	「呼吸器系：気管と肺」 ① 気管の壁の構造を理解する。 ② 左右の気管支の違いを理解する。 ③ 左右の肺の違いを理解する。	「呼吸器系：気管と肺」 ① 気管の壁の構造と気管支の左右差を説明できる。 ② 肺尖の位置と左右の肺の葉と裂を説明できる。	桑原裕子
20	後期	「消化器系：消化管」 ① 口腔から直腸までの位置を理解する。 ② 胃の構造を理解する。 ③ 十二指腸に開口する総胆管や膵管の開口部位を理解する。 ④ 消化管の免疫に関する構造を理解する。 ⑤ 消化管に存在する括約筋や弁を理解する。 ⑥ 腹膜と消化管の関係を理解する。	「消化器系：消化管」 ① 口腔から咽頭、食道、胃、十二指腸、空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸までの位置を説明できる。 ② 胃の部位や固有胃腺、縦ヒダ、幽門括約筋を説明できる。 ③ 大十二指腸乳頭に開口する導管とオッディの括約筋を説明できる。 ④ 回腸のパイエル板を説明できる。 ⑤ 回盲弁を説明できる。 ⑥ 腹膜と消化管の関係を説明できる。	桑原裕子

21	後期	「消化器系：消化腺」 ① 唾液腺の種類と位置を理解する。 ② 肝臓の位置と構造を理解する。 ③ 膵臓の位置と構造を理解する。	「消化器系：消化腺」 ① 耳下腺、顎下腺、舌下腺およびそれぞれの導管の位置を説明できる。 ② 肝臓の位置と構成および関連する脈管系とともに説明できる。 ⑤ 膵臓の腹膜との関連で位置を説明できる。	桑原裕子
22	後期	「腎臓」 ① 左右の腎臓の位置を理解する。 ② 腎臓の微細構造を理解する。	「腎臓」 ① 左右の腎臓の位置の違いを説明できる。 ② 腎臓の皮質と髄質の微細構造を説明できる。 ③ 腎単位を機能と関連付けて説明できる。	桑原裕子
23	後期	「尿管、膀胱、尿道」 ① 尿管の位置と走行を理解する。 ② 膀胱の位置と構造を理解する。 ③ 尿道の位置と構造を理解する。	「尿管、膀胱、尿道」 ① 尿管の位置および走行と腎臓や膀胱との連絡を説明できる。 ② 骨盤腔内での膀胱の位置を男女差で説明できる。 ③ 膀胱三角を説明できる。 ⑦ 尿道の長さの男女差を説明できる。	桑原裕子
24	後期	「男性の生殖器」 ① 精巣の位置と構造を理解する。 ② 精巣上体、精囊、前立腺の位置と構造を理解する。 ③ 精路を理解する。 ④ 陰茎の構造を理解する。	「男性の生殖器」 ① 精囊を説明できる。 ② 精細管内の生殖細胞と男性ホルモン産生に關与する間細胞を説明できる。 ③ 精巣上体、精囊、前立腺および精路を順に説明できる。 ① 海綿体を説明できる。	桑原裕子
25	後期	「女性の生殖器」 ① 卵巣の位置と構造を理解する。 ② 子宮および卵管の位置と構造を理解する。 ① 膣および外陰部の構造を理解する。	「女性の生殖器」 ① 卵巣の位置と皮質・髄質の構成を説明できる。 ② 子宮および卵管の骨盤内の位置と構造を説明できる。 ⑤ 外陰部の構造を説明できる。	桑原裕子
26	後期	「内分泌腺の位置と構造」 ① 下垂体の位置と発生に起因する構造を理解する。 ② 甲状腺の位置と構造を理解する。 ③ 上皮小体の位置を理解する。 ④ 膵臓のランゲルハンス島を理解する。 ⑤ 副腎の位置と発生学に由来する構造を理解する。 ⑥ 松果体の位置を理解する。	「内分泌腺の位置と構造」 ① 下垂体の位置と発生に起因する構造を説明できる。 ② 甲状腺の位置と甲状腺濾胞や傍濾胞細胞を説明できる。 ③ 上皮小体の位置を説明できる。 ④ 膵臓のランゲルハンス島を説明できる。 ⑤ 副腎の位置と発生学的構造を説明できる。 ⑥ 松果体の位置を説明できる。	桑原裕子
27	後期	「皮膚の構造」 ① 皮膚の三層構造を理解する。 ② 皮膚の感覚器官を理解する。	「皮膚の構造」 ① 表皮、真皮および皮下組織の構成を説明できる。 ② 主な皮膚の感覚器官を説明できる。	桑原裕子

28	後期	「視覚器」 ① 眼球の構造を理解する。 ② 眼球運動に関する外眼筋を理解する。	「視覚器」 ① 角膜・強膜・脈絡膜・網膜・水晶体・虹彩の構造を機能と関連付けて説明できる。 ② 眼球運動に関与する外眼筋と神経支配を説明できる。	桑原裕子
29	後期	「聴覚器・平衡覚器と嗅覚器」 ① 耳の構造を理解する。 ② 嗅覚に関係する嗅上皮の位置と構造を理解する。	「聴覚器・平衡覚器と嗅覚器」 ① 外耳、中耳、内耳の構造を説明できる。 ② 前庭階、鼓室階および蝸牛管を説明できる。 ③ 半規管の膨大部稜と卵形嚢・球形嚢の平衡班の構造を説明できる。 ④ 嗅上皮の位置と神経支配を説明できる。	桑原裕子
30	後期	「胚子の発生と器官の発生」 ① 受精卵から週令ごとの胚子の発生を理解する。 ② 胚葉分化を理解する。 ③ 循環器系、消化器系、呼吸器系、筋系、神経系の発生を理解する。	「胚子の発生と器官の発生」 ① 二層性胚盤および三層性胚盤の形成を説明できる。 ② 胚葉分化を説明できる。 ③ 循環器系、消化器系、呼吸器系、筋系、神経系の主な発生を説明できる	桑原裕子
成績評価方法	科目試験を80%、小テストを20%			
復習について	③ 小テスト課題(解答付き国家試験過去問)を復習に使ってほしい。 ④ 豊富な図が記載されている『プロメテウスの解剖学』は自宅学習に大いに利用してほしい。			
講義に際して	些細なことでも、気軽に質問してほしい。 尚、講義中の携帯の使用、居眠り、授業に関係ないおしゃべりは厳重に注意する。			

学科・年次	作業療法学科 1年
科目名	生理学 I
担当者	中村浩
単位数（時間数）	2 単位（60 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版

授業概要と目的
生理学は「生きる」ことの「理(ことわり)」を知り「生きているという状態」を記述しようとする学問です。医学・医療の基礎となるだけでなく、私たち自身を知る上でとても重要です。生理学では、生命現象の基本となる細胞機能から、生体が環境の変化に対応するための機能(運動機能、神経機能、感覚機能)を中心に学びます。

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「総論：生理学の学び方」 学問としての生理学の概念を理解し、勉強を進めていく上での考え方を構築する。	「生理学という学問の医療との関り、人間が生きているということの概念を学ぶ」 ①生理学と医療との関りの概念を説明できる。 ②人間の生命活動と生理学の関係を説明できる。	中村浩
2	前期	「生理学の概要」 生理学とは何か、ヒトが生命を維持するとはどういうことかを知る。	「生理学とは何か？」 ・生理学という学問が、ヒトがどのように生きているかということを学ぶ上で重要な科目であることが認識できる。	中村浩
3	前期	「細胞の構造と機能①」 細胞内小器官について理解する。	「人体の基本的単位である細胞の構造とそれぞれの持つ機能について学ぶ」 ①細胞の基本的構造について説明できる。 ②細胞内小器官の種類とそれぞれの機能について説明できる。	中村浩
4	前期	「血液 1」 血液とは何か、どのような成分で構成されているかを知る。	「血液の成分と赤血球の生成」 ・血液がどのような臓器で、どのようなものから構成されているかを理解できる。 ・赤血球がどのように生成を調整されているかが理解できる。	中村浩

5	前期	「細胞の構造と機能②」 細胞外環境と細胞の相互作用について理解する。	「人体における細胞外の環境と細胞とその環境がもたらす作用について学ぶ」 ①細胞外液等の細胞外環境の構成について説明できる。 ②輸送等の細胞と細胞外環境の相互作用について説明できる。	中村浩
6	前期	「血液 2」 赤血球の機能について、どのような働きがあるかを知る。	「赤血球の酸素運搬と貧血」 ・赤血球がどのような状態で酸素を運搬するのかが理解できる。 ・貧血にはどのようなタイプがあるかを認識できる。	中村浩
7	前期	「細胞の興奮発生と興奮伝導①」 膜電位について理解する。	「細胞膜の内外で生じる電位差によって生じる静止膜電位について学ぶ」 ①細胞膜の性質と膜電位の関係について説明できる。 ②ナトリウムポンプ等の働きをもとに静止膜電位形成の仕組みを説明できる。	中村浩
8	前期	「血液 3」 白血球の機能について、どのような働きがあるかを知る。	「白血球の機能と免疫」 ・白血球にどのようなタイプのものがあるかを理解できる。 ・白血球とヒトの免疫のシステムについて理解できる。	中村浩
9	前期	「細胞の興奮発生と興奮伝導②」 膜の興奮発生について理解する。	「細胞の特徴の一つである興奮を起こすという現象について学ぶ」 ①活動電位と発生の仕組みについて説明できる。 ②閾刺激、不応期、チャネル等の電位変化に関わる内容について説明できる。	中村浩
10	前期	「心臓 1」 心臓の内部構造や血液の循環の様子について知る。	「心房・心室と血液循環」 ・心房・心室と弁の構造について理解できる。 ・血液循環と心臓の内部での循環経路について理解できる。	中村浩
11	前期	「細胞の興奮発生と興奮伝導③」 膜の興奮伝導について理解する。	「活動電位が軸索に沿って伝播する興奮の伝導について学ぶ」 ①伝導の原則をもとに伝導する仕組みを説明できる。 ②跳躍伝導の仕組み、神経線維の差による伝導速度の違いを説明できる。	中村浩

12	前期	「心臓 2」 心臓がどのようにして動いているかを知る。	「心臓の電氣的興奮」 ・心筋細胞がどのようにして興奮しているのかを理解できる。 ・心臓の電氣的興奮は、どこで発生してどのようにして心臓全体に伝播されるかが理解できる。	中村浩
13	前期	「骨格筋の収縮①」 骨格筋・収縮装置の構造について理解する。	「筋肉の種類と骨格筋の構造について学ぶ」 ①骨格筋をはじめとした筋肉の分類とその特徴について説明できる。 ②筋原線維等の骨格筋の構造について説明できる。	中村浩
14	前期	「心臓 3」 心臓の周期的な動きを知る。	「心電図と心周期」 ・心電図の波形と、その意味について理解できる。 ・心周期として、心臓がどのような変化を繰り返しているかについて理解できる。	中村浩
15	前期	「骨格筋の収縮②」 骨格筋の収縮の仕組みについて理解する。	「骨格筋の収縮する仕組みについて学ぶ」 ①筋収縮の仕組みと筋節構造の変化について説明できる。 ②筋細胞膜興奮とアセチルコリンの関係について説明できる。	中村浩
16	前期	「心臓 4」 心臓が送り出す血液量について知る。	「心拍出量とその変化」 ・心臓が送り出すことのできる血液量について計算できる。 ・心臓の動きと心拍出量の変化に伴うエネルギーの違いについて理解できる。	中村浩
17	前期	「骨格筋の収縮③」 骨格筋収縮の特徴について理解する。	「骨格筋の収縮の加重など筋収縮の特徴について学ぶ」 ①等尺性収縮、加重と強縮等の筋収縮の仕方について説明できる。	中村浩
18	前期	「循環 1」 血液循環を担っている血管について、どのようなものがあるかを知る。	「血管の機能的区分」 ・血液循環について、どのような循環があるかを理解できる。 ・血液循環について、その機能による区分ができる。	中村浩
19	前期	「骨格筋の収縮④」 骨格筋の生理について理解する。	「筋収縮のエネルギーについて学ぶ」 ①筋の収縮弛緩とATPの関係について説明できる。 ②ATP産生過程について説明できる。	中村浩

20	前期	「循環 2」 血圧がどのようにして決ま っていて、どのように調節 しているかを知る。	「血管内圧と血圧」 ・血管の内圧がどのよう に決まっているかを理 解できる。 ・血圧がどのようにして 決まっていて、どのよ うに調節されているか を知ることができる。	中村浩
21	前期	「シナプス伝達①」 シナプスについて理解 する。	「興奮の伝達の基本構 造であるシナプスにつ いて学ぶ」 ①シナプスの構造につ いて説明できる。	中村浩
22	前期	「循環 3」 血液循環における特殊 循環について知る。	「特殊部位の循環」 ・特殊循環について、 どのようなものがある かを知ることができる。 ・それぞれの特殊循環 の特徴を理解できる。	中村浩
23	前期	「シナプス伝達②」 シナプス伝達の性質に ついて理解する。	「シナプスの構造をも とにシナプス伝達の性 質について学ぶ」 ①一方向性伝達等のシ ナプス伝達の特徴につ いて説明できる。	中村浩
24	前期	「呼吸 1」 呼吸と、呼吸器としての 肺の構造を知る。	「呼吸の定義と肺の構 造」 ・呼吸として外呼吸と 内呼吸があることを 知ることができる。 ・肺の内部の構造につ いて理解することがで きる。	中村浩
25	前期	「シナプス伝達③」 化学伝達物質と受容体 について理解する。	「シナプス伝達を行う 化学伝達物質と受容体 の関係について学ぶ」 ①化学伝達物質の種 類と受容体の関係につ いて説明できる。 ②興奮性、抑制性シ ナプスと化学伝達物質 の関係について説明 できる。	中村浩
26	前期	「呼吸 2」 肺での換気の仕組みを 知る。	「呼吸時の肺の動きと 換気量」 ・吸息時と呼息時でど のように肺が動かされ るかが理解できる。 ・換気に伴う換気量の 計算方法が理解でき る。	中村浩
27	前期	「神経系：総論」 神経系の成り立ちや神 経系の分類について理 解する。	「生体機能の調節を司 る神経の概要について 学ぶ」 ①中枢神経、末梢神 経等の神経系の成り立 ちについて説明でき る。 ②体性神経系と自律 神経等の神経系の分 類について説明でき る。	中村浩

28	前期	「呼吸3」 呼吸力学とガス交換のメカニズムについて知る。	「呼吸力学とガス交換」 ・呼吸時の容積・圧力の変化と肺のコンプライアンスについて理解できる。 ・血管と肺胞もしくは組織間でのガス交換の原理が理解できる。	中村浩
29	前期	「自律神経系」 自律神経系の役割と作用について理解する。	「内臓機能の調節をはじめとした自律神経系の役割と機能について学ぶ」 ①交感神経と副交感神経の概要を説明できる。 ②自律神経がもたらす内臓機能の調節や伝達物質について説明できる。	中村浩
30	前期	「まとめと試験」 これまでの内容を理解して、生理学の植物機能を知る。	・血液についての内容が理解でき、説明できる。 ・循環と心臓の機能について理解でき、説明できる。 ・呼吸と呼吸器の機能について理解でき、説明できる。	中村浩
成績評価方法		小テスト(40%) 科目試験(60%)		
準備学習など		教科書を用いた予習復習に努めること。		
留意事項				

学科・年次	作業療法科・1 学年
科目名	生理学 II
担当者	中村 浩
単位数（時間数）	2 単位(60 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第 6 版

授業概要と目的
生理学は「生きる」ことの「理(ことわり)」を知り「生きているという状態」を記述しようとする学問です。医学・医療の基礎となるだけでなく、私たち自身を知る上でとても重要です。生理学では、生命現象の基本となる細胞機能から、生体が環境の変化に対応するための機能(運動機能、神経機能、感覚機能)を中心に学びます。(中村 浩)

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「消化・吸収 1」 消化管の構造と神経支配について知る。	「消化管の運動調節」 ・消化管について、構造が理解できる。 ・消化管の運動に関与する物質や消化管を支配している神経系を理解できる。	中村浩
2	後期	「運動機能①」 筋と運動ニューロンについて理解する。	「運動機能とニューロンの関係及び感覚器について学ぶ。」 ①運動機能の概念と運動ニューロンに送り込まれる入力及び反射について説明できる。 ②筋紡錘、腱紡錘といった骨格筋の感覚器について説明できる。	中村浩
3	後期	「消化・吸収 2」 胃や小腸の運動について知る。	「消化に伴う胃と小腸の運動」 ・胃がどのような筋を用いてどのような運動を起こすか理解できる。 ・小腸における運動や律動性収縮について理解できる。	中村浩
4	後期	「運動機能②」 脳幹、小脳、大脳基底核と運動機能について理解する。	「脳幹を中枢とする運動機能及び小脳と大脳基底核の機能について学ぶ」 ①脳幹における体制運動反射について説明できる。 ②小脳と大脳基底核がもたらす運動機能の調節について説明できる。	中村浩

5	後期	「消化・吸収 3」 排便や胃液の分泌の仕組みを知る。	「排便のメカニズムと胃液の分泌」 ・どのようにして排便を引き起こすかを理解できる。 ・胃での消化液の分泌について、どのような制御を受けているかが理解できる。	中村浩
6	後期	「運動機能③」 新皮質運動野の機能について理解する。	「新皮質運動野と随意運動について学ぶ」 ①運動野と錐体路について説明できる。 ②運動野による随意運動における役割を説明できる。	中村浩
7	後期	「消化・吸収 4」 胃液以外の消化液の分泌について知る。さらに、消化に伴う食物の吸収について知る。	「胃液以外の消化液の分泌と食物の吸収」 ・胃液以外にどのような消化液が消化に関与しているかが理解できる。 ・消化の後、どのような状態で食物が吸収されるかを知ることができる。	中村浩
8	後期	「感覚総論」 感覚の種類、感覚の性質について理解する。	「感覚の分類と受容器及び感覚の一般的性質について学ぶ」 ①感覚の分類、種類、受容器の関係を説明できる。 ②感覚器と活動電位の関係等、感覚の一般的性質について説明できる。	中村浩
9	後期	「内分泌 1」 内分泌の主な作用機序について理解できる。	「ホルモンの種類と役割」 ・ホルモンにはどのような種類があるかを理解できる。 ・分泌されるホルモンにはどのような作用を持つかを理解できる。	中村浩
10	後期	「体性感覚①」 皮膚感覚について理解する。	「接触刺激により感じられる皮膚感覚について学ぶ」 ①触覚、温痛覚の概説と特徴及び伝導路について説明できる。 ②皮膚感覚の受容体と求心線維について説明できる。	中村浩
11	後期	「内分泌 2」 視床下部と下垂体から分泌されるホルモンや分泌機序について知る。	「下垂体と視床下部の関係」 ・視床下部と下垂体から分泌されるホルモンについて理解できる。 ・下垂体から分泌されるホルモンが視床下部から分泌されるホルモンによる制御を受けていることが理解できる。	中村浩
12	後期	「体性感覚②」 深部感覚について理解する。	「動きなどの機械的刺激により起こる深部感覚について学ぶ」 ①運動感覚と深部痛覚について説明できる。 ②深部感覚の受容体と伝導路について説明できる。	中村浩

13	後期	「内分泌3」 副腎や甲状腺・副甲状腺から分泌されるホルモンの種類や作用を知る。	「副腎髄質・副腎皮質ホルモンと甲状腺ホルモン・副甲状腺ホルモンについて」 ・副腎皮質ホルモン・副腎髄質ホルモンの作用が理解できる。 ・甲状腺ホルモン・副甲状腺ホルモンの作用が理解できる。	中村浩
14	後期	「体性感覚③」 内臓感覚について理解する。	「自律神経と内臓痛覚の関係について学ぶ」 ①自律神経と内臓痛覚の関係及び受容器や関連痛の概念について説明できる。 ②自律神経の支配領域と内臓痛覚の神経路について説明できる。	中村浩
15	後期	「内分泌4」 膵臓から分泌されるホルモンと作用について知る。	「膵ホルモンと血糖値調節」 ・膵臓から内分泌されるホルモンとそのはたらきについて理解できる。 ・血糖値の調節とホルモンとの関係を理解できる。	中村浩
16	後期	「味覚・嗅覚」 味覚と嗅覚について理解する。	「味覚・嗅覚の仕組みについて学ぶ」 ①味覚の受容器と電気活動及び伝導路について説明できる。 ②嗅覚の受容器と電気活動及び伝導路について説明できる。	中村浩
17	後期	「生殖」 ヒトの生殖や性ホルモンについて知る。	「生殖生理と性ホルモンの関係」 ・生殖のメカニズムが理解できる。 ・性ホルモンの作用について理解できる。	中村浩
18	後期	「聴覚」 聴覚について理解する。	「聴覚の仕組みについて学ぶ」 ①耳の構造と音の伝達について説明できる。 ②聴覚の受容器と伝導路について説明できる。	中村浩
19	後期	「腎機能1」 腎臓の構造や原尿の生成の原理を知る。	「腎臓の構造と原尿の生成」 ・腎臓の構造と機能が理解できる。 ・糸球体での濾過による原尿の生成のメカニズムを理解できる。	中村浩
20	後期	「視覚①」 眼の構造と結像について理解する。	「眼の構造と結像の機序について学ぶ」 ①通光器官としての眼の構造と通光学に基づく結像の機序について説明できる。	中村浩

21	後期	「腎機能 2」 糸球体濾過量の求め方や、その値の評価の方法を知る。	「糸球体濾過量の取扱い」 ・糸球体濾過量がどのような原理で測定しているかが理解できる。 ・腎機能が糸球体濾過量とどのように関係しているかを理解できる。	中村浩
22	後期	「視覚②」 光受容機序と視覚伝導について理解する。	「光受容の機序と視覚伝導について学ぶ」 ①視細胞と電気活動による光受容の機序について説明できる。 ②視覚伝導と視覚野の関係について説明できる。	中村浩
23	後期	「腎機能 3」 尿細管での再吸収の詳細を知る。	「各尿細管での物質の再吸収」 ・各尿細管において、どんな物質を再吸収しているかを理解できる。 ・再吸収を調節しているホルモンなどの物質について知ることができる。	中村浩
24	後期	「脳の統合機能①」 高次機能としての大脳皮質の機能分化について理解する。	「大脳皮質の機能分化と脳波及び覚醒と睡眠について学ぶ」 ①新皮質と辺縁皮質及び分野について説明できる。 ②脳波の種類と覚醒と睡眠の関係について説明できる。	中村浩
25	後期	「酸塩基平衡」 恒常性に重要な酸塩基平衡について知る。	「アシドーシスとアルカローシス」 ・代謝や呼吸・腎性によるアシドーシスとアルカローシスが理解できる。 ・酸塩基平衡がどのようにして安定して維持できているかが理解できる。	中村浩
26	後期	「脳の統合機能②」 新皮質連合野の統合機能について理解する。	「統合機能である認知、言語、意志、感情、記憶について学ぶ」 ①脳と認知、言語、意志と感情の関係について説明できる。 ②脳と学習と記憶の関係について説明できる。	中村浩
27	後期	「体温調節の生理学」 ヒトのおかれた環境に応じて調節される体温の調節メカニズムを知る。	「皮膚表面での熱の放散やセットポイントの上昇・下降」 ・皮膚表面からの熱の放散や体内での発熱による体温調節について理解できる。 ・細菌やウイルス侵入時に発生するセットポイント上昇について理解できる。	中村浩
28	後期	「総復習と質問」 これまでの生理学で学んだ知識の確認等行い理解を深める。	「内容の復習と質問の時間を設け、生理学全体の確認を行う」 ①生理学全体の内容に対し知識を单元ごと相互に結び付けることができる。	中村浩

29	後期	「まとめと試験」 これまでの内容を理解して、生 理学の全容を知る。	・消化・吸収についての内容が理解でき、説明できる。 ・内分泌について理解でき、説明できる。 ・生殖と性ホルモンについて理解でき、説明できる。 ・腎機能について理解でき、説明できる。 ・酸塩基平衡や体温調節機構について理解でき、ヒトのホメオスタシスについて説明できる。	中村浩
30	後期	「科目修了試験」と「まとめ」		中村浩
成績評価方法		小テスト(40%) 科目試験(60%)		
準備学習など		教科書を用いた予習復習に努めること。		

学科・年次	作業療法科 1 年
科目名	運動学 I
担当者	本多亜希子
単位数（時間数）	2 単位（60 時間）
学習方法	グループ形式での講義
教科書・参考書	基礎運動学 第 7 版 補訂 中村隆一 他：著 医歯薬出版 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第 6 版 医学書院 プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版 第 2 版 医学書院

授業概要と目的
解剖学・生理学において学んだ人体の構造と機能の知識を踏まえ、人間の身体運動を理解する基礎知識を習得すること を目標とする。国家試験においても解剖学・生理学と並び中心的な基礎医学科目であり、出席はもちろんのこと積極的 な授業参加を期待する。学生が主体的に学べるように学生がホワイトボードに記載する授業も設ける。また前回の授業 の学習を復習するため小テストを実施する。なお作業療法士としての臨床経験者が担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「運動学とは」 ・運動学とは何を学ぶ学問かを知 る。 「運動の面と軸」 ・身体の基本面、運動の軸につい て知る。	「運動学とは」 ・運動学とは何を学ぶ学問かを理解する。 ・国家試験における運動学が占める問題数 の割合を昨年の国家試験から確認する。 「運動の面と軸」 ・身体の基本面（矢状面、前額面、水平面）、 運動の軸を画用紙と棒を使いながら理解す る。	本多亜希子

2	後期	「各関節の運動の方向」 ・各関節の運動の方向を知る。	「各関節の運動の方向」 ・各関節の運動の方向を各自、体を動かしながら、運動方向の名称をえる。	本多亜希子
3	後期	「関節面の形態と分類」 ・関節面には様々な形態があることを知る。	「関節面の形態と分類」 ・関節面の形態と運動軸の数により分類されることを知り、それぞれ国家試験によく問われる代表的な関節を実際の骨標本を見ながら理解する。	本多亜希子
4	後期	「基本的立位姿勢の理想的アライメント」 ・左右方向、前後方向のアライメントを知る	「基本的立位姿勢の理想的アライメント」 ・まず重心、重心線、支持基底面を理解し、左右方向、前後方向の理想的アライメントを理解する。	本多亜希子
5	後期	「姿勢の分類」 ・臥位、座位、立位の特徴を捉え、またそれぞれの姿勢の名称を知る。	「姿勢の分類」 ・立位姿勢の安定性を理解し、臥床、座位、立位の特徴を理解する。 ・姿勢の名称を図と合わせて覚える。	本多亜希子
6	後期	「筋収縮の様態」 ・筋組織、骨格筋の構造を踏まえて、筋収縮の様態を知る。	「筋収縮の様態」 ・解剖学、生理学の復習も兼ねて、学生が筋組織、骨格筋の構造を説明し、理解を促す。 ・筋線維の種類、筋収縮の様態を理解できる。	本多亜希子
7	後期	「運動学の物理」 ・運動学で用いる運動方程式を知る。	「運動学の物理」 ・運動学で用いる運動方程式を理解する。	本多亜希子
8	後期	「運動学の物理」 ・第1、第2、第3のてこを知る。	「運動学の物理」 ・てこを理解し実際に国家試験の過去問に出題されている、てこの問題を確認し、傾向をつかめる。	本多亜希子
9	後期	「上肢帯に関与する関節と靭帯」 ・肩複合体の役割を知り、上肢帯におけるそれぞれの関節の形態、機能を知る。 ・それぞれの靭帯の特徴を知る。	「上肢帯に関与する関節と靭帯」 ・肩複合体の役割を知り、上肢帯におけるそれぞれの関節の形態、機能を知る。 - また復習を兼ねて、関節の形態、運動方向、運動軸を学生自身に確認を促す。また骨標本を使い、構造を理解する。 ・それぞれの靭帯の特徴を理解する。	本多亜希子

10	後期	「回旋筋腱板について」 ・回旋筋腱板の筋を知る。 ・回旋筋腱板の役割を知る。 「肩甲上腕リズムについて」 ・肩甲上腕リズムとは何かを知る。	「回旋筋腱板について」 ・回旋筋腱板の筋を挙げることができる。 ・回旋筋腱板の役割を理解する。 「肩甲上腕リズムについて」 ・肩関節屈曲、外転運動における肩甲骨、上腕骨の動きについて骨標本を使って理解する。	本多亜希子
11	後期	「上肢帯の運動に寄与する筋」 ・上肢帯の運動に寄与する筋を知る。	「上肢帯の運動に寄与する筋」 ・上肢帯の運動に寄与する筋を学生がホワイトボードへ筋名、起始、停止、支配神経を書くことで理解を深める。教員はそれを補足する形でサポートする。	本多亜希子
12	後期	「肘関節・前腕の運動に関与する関節と靭帯」 ・肘関節の役割を知り、肘関節を構成するそれぞれの関節の形態、機能を知る。	「肘関節・前腕の運動に関与する関節と靭帯」 ・肘関節の役割を知り、肘関節を構成するそれぞれの関節の形態、機能を知る。また復習を兼ねて、関節の形態、運動方向、運動軸を学生自身に確認を促す。また骨標本を使い、構造を理解する。	本多亜希子
13	後期	「肘関節の運動に寄与する筋」 ・肘関節の運動に寄与する筋を知る。	「肘関節の運動に寄与する筋」 ・肘関節の運動に寄与する筋を学生がホワイトボードへ筋名、起始、停止、支配神経を書くことで理解を深める。教員はそれを補足する形でサポートする。	本多亜希子
14	後期	「手関節・手の運動に関与する関節と靭帯」 ・手関節の役割を知り、手関節を構成するそれぞれの関節の形態、機能を知る。	「手関節・手の運動に関与する関節と靭帯」 ・手関節の役割を知り、手関節を構成するそれぞれの関節の形態、機能を知る。また復習を兼ねて、関節の形態、運動方向、運動軸を学生自身に確認を促す。また骨標本を使い、構造を理解する。	本多亜希子
15	後期	「腱鞘と指背腱膜」 ・腱鞘と指背腱膜の構造を知る。	「腱鞘と指背腱膜」 ・腱鞘と指背腱膜の構造を理解するため、学生がペアになって、お互いの手背に毛糸を使って、腱の走行を貼り、視覚的に理解できるようにする。	本多亜希子
16	後期	「手関節、手の運動に寄与する筋①」 ・手関節、手の運動に寄与する筋を知る。	「手関節、手の運動に寄与する筋①」 ・手関節、手の運動に寄与する筋を学生がホワイトボードへ筋名、起始、停止、支配神経を書くことで理解を深める。教員はそれを補足する形でサポートする。	本多亜希子

17	後期	「手関節、手の運動に寄与する筋②」 ・手関節、手の運動に寄与する筋を知る。	「手関節、手の運動に寄与する筋②」 ・手関節、手の運動に寄与する筋を学生がホワイトボードへ筋名、起始、停止、支配神経を書くことで理解を深める。教員はそれを補足する形でサポートする。	本多亜希子
18	後期	「下肢帯に関与する関節と靭帯」 ・股関節の役割を知り、股関節におけるそれぞれの関節の形態、機能を知る。 ・それぞれの靭帯の特徴を知る。	「下肢帯に関与する関節と靭帯」 ・股関節の役割を知り、股関節を構成するそれぞれの関節の形態、機能を知る。 また復習を兼ねて、関節の形態、運動方向、運動軸を学生自身に確認を促す。また骨標本を使い、構造を理解する。 ・それぞれの靭帯の特徴を理解する。	本多亜希子
19	後期	「股関節の運動に寄与する筋①」 ・股関節の運動に寄与する筋を知る。	「股関節の運動に寄与する筋①」 ・股関節の運動に寄与する筋を学生がホワイトボードへ筋名、起始、停止、支配神経を書くことで理解を深める。教員はそれを補足する形でサポートする。	本多亜希子
20	後期	「股関節の運動に寄与する筋②」 ・股関節の運動に寄与する筋を知る。	「股関節の運動に寄与する筋②」 ・肘関節の運動に寄与する筋を学生がホワイトボードへ筋名、起始、停止、支配神経を書くことで理解を深める。教員はそれを補足する形でサポートする。	本多亜希子
21	後期	「膝関節に関与する関節と靭帯」 ・膝関節の役割を知り、膝関節におけるそれぞれの関節の形態、機能を知る。 ・半月、前・後十字靭帯の特徴を知る。	「膝関節に関与する関節と靭帯」 ・膝関節の役割を知り、膝関節を構成するそれぞれの関節の形態、機能を知る。 また復習を兼ねて、関節の形態、運動方向、運動軸を学生自身に確認を促す。また骨標本を使い、構造を理解する。 ・半月、前・後十字靭帯の特徴を理解する。	本多亜希子
22	後期	「膝関節の運動に寄与する筋」 ・膝関節の運動に寄与する筋を知る。	「膝関節の運動に寄与する筋」 ・膝関節の運動に寄与する筋を学生がホワイトボードへ筋名、起始、停止、支配神経を書くことで理解を深める。教員はそれを補足する形でサポートする。	本多亜希子
23	後期	「足関節に関与する関節と靭帯」 ・足関節の役割を知り、足関節におけるそれぞれの関節の形態、機能を知る。	「足関節に関与する関節と靭帯」 ・足関節の役割を知り、足関節におけるそれぞれの関節の形態、機能を知る。	本多亜希子
24	後期	「足関節の運動に寄与する筋」 ・足関節の運動に寄与する筋を知る。	「足関節の運動に寄与する筋」 ・足関節の運動に寄与する筋を学生がホワイトボードへ筋名、起始、停止、支配神経を書くことで理解を深める。教員はそれを補足する形でサポートする。	本多亜希子

25	後期	「足の運動に寄与する筋」 ・足の運動に寄与する筋を知る。 「足のアーチについて」 ・足のアーチを構成する骨、筋を知る。	「足の運動に寄与する筋」 ・股関節の運動に寄与する筋を学生がホワイトボードへ筋名、起始、停止、支配神経を書くことで理解を深める。教員はそれを補足する形でサポートする。 「足のアーチについて」 ・足のアーチを構成する骨、筋を理解する。	本多亜希子
26	後期	「椎骨の構造」 ・椎骨の構造について知る。 「脊柱の靱帯」 ・脊柱の靱帯がどの運動を制限するかを知る。 「体幹の運動に寄与する筋」 ・体幹の運動に寄与する筋を知る。	「椎骨の構造」 ・椎骨の構造を解剖学の復習を兼ねて学生に確認をし、理解を深める。 「脊柱の靱帯」 ・脊柱の靱帯がどの運動を制限するか理解できる。 「体幹の運動に寄与する筋」 ・体幹の運動に寄与する筋を理解する。	本多亜希子
27	後期	「呼吸運動に関与する筋」 ・胸郭の運動を知る。 ・呼吸運動に関与する筋を知る。	「呼吸運動に関与する筋」 ・胸郭の運動を理解する。 ・安静吸気、努力吸気、努力呼気に関与する筋を知る	本多亜希子
28	後期	「歩行周期について」 ・歩行周期を知る。	「歩行周期について」 ・歩行周期を一緒に歩行をしながら、それぞれの名称を覚える。	本多亜希子
29	後期	「歩行における重心の移動」 ・歩行における重心の移動を知る。 「歩行時の筋活動」 ・歩行周期と筋活動を照らし合わせる。	「歩行における重心の移動」 ・歩行における重心の移動を理解する。 「歩行時の筋活動」 ・学習してきた歩行周期と筋活動を照らし合わせ、理解する。	本多亜希子
30	後期	「まとめと本試験」	「まとめと本試験」 それぞれの講義の重要ポイントを理解できたか筆記試験にて確認する。	本多亜希子
成績評価方法		出席・授業態度点（10%）、小テスト（20%）、本試験（70%）にて評価する。 100点満点		
準備学習など		解剖学Ⅰ、生理学Ⅰがベースになります。 上記の科目を日々、復習しておく、より運動学への理解が深まります。		

学科・年次	作業療法科 1年次
科目名	人間発達学
担当者	山口冨香
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	サブノート（授業にて配布）

授業概要と目的
作業療法士として必要な発達障害分野の基礎知識として、また対人援助の知識としてライフサイクルにおける人間の発達過程を身体・運動機能面、精神・認知機能面、心理・社会面から系統的に学ぶ。 なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「発達と成長」 ・発達と成長の違いを理解する。 ・発達の方向性・法則を理解する。 ・発達の種類を理解する。	「発達の種類と方向性」 ・「発達」と「成長」の違いをサブノートに記入できる。 ・発達の方向性の法則を説明できる。	山口冨香
2	前期	「乳幼児期①」 ・乳幼児期の発達の特徴を理解する。 ・形態・機能面での発達の内容を理解する。	「乳幼児の身体的発達」 ・乳幼児期の発達の特徴を4つ列挙できる。 ・身長について新生児から5歳までの増加率を述べる事が出来る。 ・体重について新生児から1歳までの増加率を述べる事が出来る。	山口冨香
3	前期	「乳幼児期②」 ・乳幼児期の神経系の発達を理解する。 ・原始反射について名称・反応・目的・消失時期を理解する。	「原始反射」 ・サブノートに記載されている原始反射の反応と消失時期を記入できる。	山口冨香
4	前期	「乳幼児期③」 ・乳幼児期の循環器系の発達を理解する。 ・成人の心臓の部位・名称・大循環の流れを理解する。 ・胎児の心臓にしかない器官を知り、胎児循環の流れを理解する。 (成人との比較で理解する。)	「成人循環と胎児循環」 ・成人の心臓の部位の名称をサブノートに記入できる。 ・胎児の心臓の部位の名称をサブノートに記入できる。 ・成人循環の流れをサブノートに記入できる。 ・胎児循環の流れをサブノートに記入できる。	山口冨香

5	前期	「乳幼児期④」 ・乳幼児期の呼吸器・消化器・泌尿器の特徴と発達を理解する。	「乳幼児の呼吸器系・消化器系・泌尿器系」 ・乳幼児の脈拍数と心拍数の関係を説明できる。 ・乳幼児の胃の形態を説明できる。 ・中枢神経系の発達の順序を説明できる。	山口冨香
6	前期	「乳幼児期⑤」 ・原始反射の消失により生じる粗大的な随意運動の順序を理解する。	「乳幼児の運動発達」 ・1ヶ月～12ヶ月の粗大運動発達を自分の体で体験できる。 ・粗大運動の発達順序についてサブノートの問題を解くことが出来る。	山口冨香
7	前期	「乳幼児期⑥」 ・微細運動としての手指の発達、可能となる運動を理解する。 ・運動発達により可能となる「遊び」の順序を理解する。 ・「言語認知」に発達を理解する。	「微細運動と心理面」 ・「把握」・「つまみ」の種類と名称、順番をサブノートに記入できる。 ・「遊び」と「言語認知」の発達順序についてサブノートの問題を解くことが出来る。	山口冨香
8	前期	「学童期①」 ・学童期の特徴を理解する。 ・「粗大運動」と「微細運動」の特徴を理解する。	「身体発達と運動発達」 ・学童期の死亡率の低さの理由を説明できる。 ・「粗大運動」と「微細運動」の特徴が現れる年齢を列举できる。	山口冨香
9	前期	「学童期②」 ・学童期の認知機能の発達の内容・順序を理解する。 ・心理面として学童期の対人関係の特徴と変化を理解する。	「認知的発達」と「心理機能の発達」 ・エリクソンの学童期の発達課題をサブノートに記入できる。 ・認知機能の整理・保存・分類・順序立ての内容をサブノートに記入できる。 ・ギャングエイジについて内容を理解し、サブノートのチャレンジ国試を解くことが出来る。	山口冨香
10	前期	「思春期①」 ・思春期に起きる体と心の変化の内容を理解する。 ・性機能の発達を理解する。	「身体的発達と性徴」 ・思春期のキーワードを4つサブノートに記入できる。 ・1次～4次の性徴の違いを説明できる。 ・第2次性徴の男女の特徴を列举できる。	山口冨香
11	前期	「思春期②」 ・思春期の心理的な特徴を理解する。 ・統合体としての人間の概念を理解する。	「心理・社会面の発達」 ・エリクソンの思春期の発達課題をサブノートに記入できる。 ・具体的操作期と形式的操作期の違いを説明できる。 ・WHOの健康の定義を述べる事が出来る。	山口冨香

12	前期	「青年期」 ・親密性と孤立の概念を理解する。 ・アイデンティティの概念を理解する。 ・職業的社会化の内容を理解する。	・エリクソンの青年期の発達課題をサブノートに記入できる。 ・心理・社会面の発達の特徴を2つサブノートに記入することが出来る。 ・職業的社会化の概念をサブノートに記入できる。 ・アイデンティティの概念を説明できる。	山口冨香
13	前期	「成人期」 ・成人期の発達の特徴を理解する。 ・成人期の前期・中期・後期で起こるライフイベントを理解する。 ・生殖性の意味を理解できる。	・エリクソンの成人期の発達課題をサブノートに記入できる。 ・ストレスの最も高い時期であることを理解し、成人期のストレスの例を挙げることができる。 ・成人期の特徴の一つである「喪失」について例を挙げて説明できる。 ・成人期の健康問題としての生活習慣病の例を挙げることが出来る。	山口冨香
14	前期	「老年期」 ・統合の概念を理解する。 ・老年期の身体的・心理的特徴を理解する。	・エリクソンの老年期の発達課題をサブノートに記入できる。 ・老年期の疾患の特徴を5つサブノートに記入することが出来る。	山口冨香
15	前期	「試験とまとめ」 筆記試験を通して、各回の講義内容を理解する。	サブノートに記入した事柄を理解し、覚えることが出来る。 サブノートに記載されている「チャレンジ国試」の問題を解くことが出来る。	山口冨香
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習など				

学科・年次	作業療法科・1 学年
科目名	病理学
担当者	中村 浩
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	はじめの一步の病理学 第2版 羊土社

授業概要と目的
病理学について、概要とそれぞれの疾患から起こる体の組織の反応について学ぶ。 多種ある疾患について、どんなことが体の中で起きているかを理解することで、実際に病気になっている人に医療者として対峙するときに、その人と病気を理解するための一歩になる。

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「はじめに」 病理学と医療の関わり、歴史 や定義を知る	「病理学という学問について」 医療に関わるにあたって病理学がど のように関わってくるかを説明でき る。 「歴史」 病理学の歴史を説明できる。	中村 浩
2	前期	「細胞障害と再生」 細胞の障害とその再生の種 類について知る	「細胞障害とはなにか」 さまざまな変性像、壊死像について 見分けることができる 「細胞、組織の形成」 生体内色素や細胞の萎縮、肥大などの 具体的な像について説明できる。	中村 浩
3	前期	「炎症」 炎症の種類について知る	「炎症巣の構造、因子」 炎症を構成する細胞と時間的経過に ついて説明できる。 「急性と慢性の炎症」 急性と慢性の炎症反応の違いについて 説明できる。	中村 浩
4	前期	「免疫」 免疫、アレルギー、自己免疫 疾患、移植免疫などについて 理解する	「免疫の種類」 免疫の種類、その構成する因子につい て説明できる。 「アレルギー、自己免疫疾患、移植免 疫」 それぞれの免疫反応を説明できる。	中村 浩

5	前期	「循環障害」 様々な循環障害について知る	「循環障害の種類」 浮腫、充血とうっ血、出血、血栓、塞栓、ショックについてそれぞれの循環動態と病理像について説明できる。	中村 浩
6	前期	「先天異常と遺伝性疾患」 先天異常と遺伝性疾患の種類について知る	「先天異常と遺伝性疾患」 先天異常の時期による分類、遺伝の仕方について述べることができる	中村 浩
7	前期	「感染症」 感染症の種類について知る	「感染症」 主な感染症を種類別に具体的にあげ、像の特徴をあげられる	中村 浩
8	前期	「環境因子、栄養」 環境と栄養が原因となる疾病について知る	「環境因子」 疾病を引き起こす環境因子について説明できる。 「栄養」 栄養による疾病について説明できる。	中村 浩
9	前期	「腫瘍」 腫瘍の分類、種類、増殖、病態、原因、発生メカニズムについて知る	「腫瘍の種類、分類」 腫瘍の種類、分類について説明できる。 「腫瘍の増殖、病態」 具体的な病理像について説明できる。	中村 浩
10	前期	「生活習慣病」 生活習慣病について知る	「生活習慣病について」 生活習慣病の考え方、改善、進み方について説明できる。 「動脈硬化病変について」 生活習慣病から派生する動脈硬化病変について説明できる。	中村 浩
11	前期	「難病」 難治性炎症疾患と代謝性疾患について知る	「難治性炎症疾患」 具体的な病気を挙げ、特徴について述べられる 「代謝性疾患」 代表的な疾患を説明できる。	中村 浩
12	前期	「老年症候群」 老年症候群について知る	「老年症候群」 認知症の定義、原因について理解する 脳血管性認知症と神経変性疾患、二次性の認知症について違いを述べられる	中村 浩

13	前期	「さまざまな臓器の疾患と病態」 臓器と、特徴的な疾患について知る	「さまざまな臓器の疾患と病態」 さまざまな臓器とそれに対する病態について説明できる。	中村 浩
14	前期	「まとめ」	病理学において、他の分野ともかかわる特に重要なポイントについて説明できる。	中村 浩
15	前期	「まとめと試験」	それぞれの組織で起こる代表的な反応について説明できる。	中村 浩
成績評価方法		筆記試験 100 点		
準備学習など		教科書を確認しておくこと		

学科・年次	作業療法科 1 年次
科目名	看護学
担当者	鷺見三重子
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	・多職種連携・地域連携をふまえた 看護記録パーフェクトガイド ・高齢者救急急変予防&対応ガイドマップ

授業概要と目的
チーム医療のパートナーとして看護師業務を理解するうえで、看護ケア場面で必要な知識、技術、コミュニケーション等の具体的なアプローチ方法について演習を通して学ぶ。また、作業療法士として看護師と協働し、円滑に効率・効果的な患者のケアを学ぶ。それに加えて、救命措置、予防医療を学ぶ。なお、講義は臨床経験のある看護師が担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「作業療法士として病院環境の理解」 医療の現状を知り、関係する職員の役割が理解できる。	医療の現状において個人情報の守秘義務などの職業倫理、医療行為における説明と同意、患者の権利等を学び、作業療法士の医療人としての心構えがわかる。	鷺見三重子
2	後期	看護師の職業が理解できる。	看護師の業務と役割について述べるができる。また作業療法士として看護師とのよいかかわり方について考えることができる。	鷺見三重子

3	後期	医療場面における職業倫理が理解できる。	チーム医療と構成メンバーの特性が理解でき、作業療法士としての立場を述べる事が出来る。	鷺見三重子
4	後期	医療の安全性（リスク管理）が理解できる。	医療事故、訴訟、医療事故防止（コミュニケーションの重要性）を学ぶことで医療の安全について述べる事が出来る。	鷺見三重子
5	後期	予防医療の概要、一次予防、二次予防、三次予防について理解する。	一次予防、二次予防、三次予防の概要と必要性を述べる事が出来る。	鷺見三重子
6	後期	感染対策についての基礎知識を理解し、感染対策、感染源、感染経路、宿主について知り、感染防止策を理解する。	医療行為による感染の危険性が理解でき、感染予防の方法を述べる事が出来る。 医療現場で使用する器具器材の滅菌、消毒の必要性と管理方法を述べる事が出来る。また、個人衛生の方法を述べる事が出来る。	鷺見三重子
7	後期	ケア方法 1 バイタルサインの意味する身体機能が理解できる。	医療的ケアであるバイタルサインの意義を講義を通して理解し、夫々の身体機能を述べる事が出来る。	鷺見三重子
8	後期	ケア方法 2 バイタルサインの測定方法と異常時が理解できる。	バイタルサインの測定方法の演習を通して具体的行動を起こす事が出来る。 また、異常時を説明できる。	鷺見三重子
9	後期	ケア方法 3 コミュニケーションの基礎知識の理解と認知症の病態及びケアのポイントが理解できる。	コミュニケーションの意味と方法を述べる事が出来る。 また、認知症の種類と症状を学び、基礎知識とケア方法を述べる事が出来る。	鷺見三重子
10	後期	ケア方法 4 医療現場でのコミュニケーションの重要性と具体的方法が理解できる。	事例の演習を通じてコミュニケーションの難しさを知り、相手の状況に合った方法を探ることの重要性に気付ける。	鷺見三重子
11	後期	ケア方法 5 医療現場での緊急状況を理解できる。	患者の状態変化に気づき、緊急性のあることを理解できる。事例を通して応急処置の必要性和処置方法を述べる事が出来る。	鷺見三重子
12	後期	ケア方法 6 救急救命処置を行う事が出来る。	事例を通じて 1.心肺蘇生の実技方法 2.AED の取扱い方法 などを学ぶ。	鷺見三重子
13	後期	記録の意義と記録形式を学び、記録の必要性が理解できる。	教科書に基づいた学びで医療現場での記録の重要性を知る。	鷺見三重子
14	後期	記録の注意ポイントが理解できる。	さらに適切な記録方法を述べる事が出来る。	鷺見三重子
15	後期	科目のまとめ及び科目試験	これまでの講義ポイントのおさらいと質疑応答により試験対策を行うことで理解を深める事が出来る。	鷺見三重子

成績評価方法	筆記試験により、成績評価点数を（100%または 100 点）に換算し 60 点以上を合格とする。満たない場合の学生については再試験対策を促したうえで再試験を実施する。
準備学習など	講義終了ごとに不明快な点は質問をし、まとめをすることで試験対策をすること。

学科・年次	作業療法科 1 学年
科目名	臨床心理学
担当者	椎野 智子
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：相談の心理学 福島脩美 金子書房 2011 年

授業概要と目的	
臨床心理学は、心理の専門家のみならず、多くの対人援助職において重要な学習領域である。本講義では、臨床心理学の理論と実践を学び、カウンセリング技法を習得することにより、自己と他者への理解を深め、信頼関係の形成に役立つカウンセリング技術を身につける。臨床心理士が担当する。	

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「臨床心理学の定義」 一般目標 ①臨床心理学の概要を学ぶ	「臨床心理学の定義」 到達目標 ①臨床心理学の概要について説明できる	椎野 智子
2	後期	「臨床心理学の歴史的背景と発展」 一般目標 ①臨床心理学の歴史的背景と発展について理解する	「臨床心理学の歴史的背景と発展」 到達目標 ①臨床心理学の歴史的背景と発展について説明できる	椎野 智子
3	後期	「意識と無意識」 一般目標 ①意識と無意識について理解する	「意識と無意識」 到達目標 ①意識と無意識について説明できる	椎野 智子

4	後期	「パーソナリティ理論」 一般目標 ①パーソナリティ理論について理解する	「パーソナリティ理論」 到達目標 ①パーソナリティ理論について説明できる	椎野 智子
5	後期	「心理アセスメント（１）」 一般目標 ①面接法について理解する ②知能検査について理解する	「心理アセスメント（１）」 到達目標 ①面接法について説明できる ②知能検査について説明できる	椎野 智子
6	後期	「心理アセスメント（２）」 一般目標 ①質問紙法について理解する ②投映法について理解する	「心理アセスメント（２）」 到達目標 ①質問紙法について説明できる ②投映法について説明できる	椎野 智子
7	後期	「臨床心理面接（１）」 一般目標 ①カウンセリングについて理解する ②心理療法について理解する	「臨床心理面接（１）」 到達目標 ①カウンセリングについて説明できる ②心理療法について説明できる	椎野 智子
8	後期	「臨床心理面接（２）」 一般目標 ①その他の心理療法について理解する	「臨床心理面接（２）」 到達目標 ①その他の心理療法について説明できる	椎野 智子
9	後期	「臨床心理面接（３）」 一般目標 ①集団心理療法について理解する	「臨床心理面接（３）」 到達目標 ①集団心理療法について説明できる	椎野 智子
10	後期	「カウンセリング技法（１）」 一般目標 ①カウンセリングの基本的態度について理解する	「カウンセリング技法（１）」 到達目標 ①カウンセリングの基本的態度について説明できる	椎野 智子
11	後期	「カウンセリング技法（２）」 一般目標 ①傾聴について理解する	「カウンセリング技法（２）」 到達目標 ①傾聴について説明できる	椎野 智子
12	後期	「カウンセリング技法（３）」 一般目標 ①くり返し・言い換えについて理解する	「カウンセリング技法（３）」 到達目標 ①くり返し・言い換えについて説明できる	椎野 智子
13	後期	「カウンセリング技法（４）」 一般目標 ①質問について理解する	「カウンセリング技法（４）」 到達目標 ①質問について説明できる	椎野 智子
14	後期	「臨床場面におけるカウンセリ	「臨床場面におけるカウンセリング事例」	椎野 智子

		ング事例」 一般目標 ①臨床事例から臨床実践を行う際の留意点を理解する	到達目標 ①臨床実践を行う際の留意点を説明できる	
15	後期	「まとめ」 一般目標 ①講義で学んだ内容について振り返り、対人援助を行う際の留意点を理解する	「まとめ」 到達目標 ①対人援助を行う際の留意点について説明できる	椎野 智子
成績評価方法		科目筆記試験（60%）、授業内小レポート（40%） 合計 100 点		
準備学習など		講義中に小レポートを実施し、習熟度を確認する。		
留意事項		特になし		

学科・年次	作業療法科 1 年次
科目名	精神医学
担当者	益田 健史
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義形式。プロジェクターで画像・動画を提示する。
教科書・参考書	講師の作成した冊子を教科書として使用する。参考書は講義の中で随時紹介する。

授業概要と目的
授業概要 精神科医師が臨床に必要な精神医学の基本を講義する。各精神疾患について順々に解説する。疾患ごとの特性を整理し、治療法の基本的知識を説明する。医師が担当する。 授業目的 1. 精神医学の代表的な精神疾患を整理・把握する。 2. 各精神疾患に特徴的な症状、病因、治療方法を理解・記憶する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「心身症総論」 心身症の概略を理解・習得する。	「ストレスと自律神経系、内分泌系」 心身症の定義をおぼえる。 ストレスと交感神経系、副腎皮質ホルモンとの関連を理解する。 交感神経系、副腎皮質ホルモンの作用と弊害を理解する。	益田 健史
2	後期	「心身症 消化器疾患・循環器疾患」 心身症として消化器疾患・循環器疾患を理解・習得する。	「ストレスと消化器疾患・循環器疾患」 ストレスと顎関節症、失声、逆流性食道炎、過敏性腸症候群との関連、それぞれの疾患の特徴を説明できる。 ストレスと高血圧症、虚血性心疾患との関連、それぞれの疾患の特徴を説明できる。	益田 健史
3	後期	「生活習慣病、心身症の予防・回復」 生活習慣病の概要、心身症の対策を理解・習得する。	「ストレスと生活習慣病、心身症の予防・回復について」 ストレスが高血圧、高血糖、高脂血症を誘発する仕組みを学び理解する。 心身症の予防・回復について理解し、実践・助言できる。	益田 健史
4	後期	「強迫性障害」 強迫性障を理解・習得する。	「強迫性障害の特性」 強迫観念と強迫行為を理解し説明できる。 強迫性障害の生物学的背景を説明できる。 強迫性障害の治療方法について説明できる。	益田 健史

5	後期	「依存症総論」 依存症の概念を理解・習得する。	「依存症、中毒、乱用、嗜癖」 依存症、中毒、乱用、嗜癖の各用語を説明できる。 依存症の誘因を理解し説明できる。	益田 健史
6	後期	「アルコール依存症」 アルコール依存症の特性を理解・習得する。	「アルコール依存症の進行プロセス」 耐性の獲得、離脱症状、身体症状、自制喪失について理解し説明できる。 自助グループ、抗酒薬を理解し説明できる。	益田 健史
7	後期	「うつ病」 うつ病の特性を理解・習得する。	「うつ病の特性」 身体化症状、睡眠障害、微小妄想、希死念慮、抑うつ気分、精神運動抑制などの症状を理解し説明できる。 うつ病の生物学的背景を理解し説明できる。 うつ病の治療を理解し説明できる。	益田 健史
8	後期	「躁うつ病」 躁うつ病の特性を理解・習得する。	「躁うつ病の特性」 両極性障害、観念奔逸、行為心迫を理解し説明できる。 そう状態の生物学的背景、治療方法を理解し説明できる。	益田 健史
9	後期	「解離性障害」 解離性障害を理解・習得する。	「解離性障害の特性」 解離、健忘、遁走を理解し説明できる。 抑圧が解離を誘発するメカニズムを理解し説明できる。	益田 健史
10	後期	「PTSD」 PTSDを理解・習得する。	「PTSDの特性」 心的外傷と発症のメカニズムを把握する。 解離、フラッシュバック、過覚醒を理解し説明できる。 PTSDへの支援方法を理解し説明できる。	益田 健史
11	後期	「多重人格」 多重人格を理解・習得する。	「多重人格の特性」 多重人格障害、解離性同一性障害、主人格、交代人格を理解し説明できる。 多重人格の誘因を理解し説明できる。	益田 健史
12	後期	「統合失調症の概要」 本疾患の概要を把握する。	「疫学、症状」 発症率、好発年齢、陽性症状、陰性症状を理解する。 精神症状から本疾患を推測できる。 現実的に可能な支援を検討できるようになる。	益田 健史
13	後期	「統合失調症の理解と支援」 生物学的理解、心理学的理解と薬物療法、心理療法、リハビリを理解する。	「生物学的背景、治療」 陽性症状とドーパミン仮説、陰性症状と前頭葉の機能低下について、それぞれの関連を理解する。 抗精神病薬の作用機序を理解する。 それぞれの患者に応じた支援を工夫できる。	益田 健史

14	後期	「認知症総論」 認知症をきたす疾患を整理・理解する。	「認知症をきたす各疾患と原因、症状、治療法」 アルツハイマー型、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型の違いを理解する。 それぞれの疾患に対する支援に関与できる。	益田 健史
15	後期	「認知症症状と支援方法」 症状、介護、看護、治療を整理・理解する。	「症状と介護、看護、治療」 記憶障害、失行、失見当識、視覚失認、思考障害の原因部位と症状を理解し説明できる。 アルツハイマー型認知症の病状進行プロセスを時系列に沿って順次説明できる。 抗認知症薬のメカニズムと効果の限界について理解する。	益田 健史
成績評価方法		最後の講義終了後にレポート作成提出。課題内容は授業中に提示する。成績評価はレポート100%。		
準備学習など		精神疾患は得体が知れないと思われがちです。しかし正常な精神活動の延長線上にあるので、ある程度の了解は可能です。将来みなさんが専門職に就いた時に、精神疾患をもつ方の支援にかかわることがあります。そんなときに対象者の病気・心理・特徴などを考慮した支援に役立つような授業にしたいと思っています。		
留意事項		レポート提出は遅延のないように。		

学科・年次	作業療法科 1年次
科目名	栄養学
担当者	太田侑亜
単位数（時間数）	1単位(15時間)
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	必要な資料は随時配布

授業概要と目的
食に関する情報があふれている中、正しい知識を持ち、「何が健康のために本当に良いのか？」を判断する能力が必要です。授業項目は、「栄養素の種類と働き」「食事と食品」について理解を深め、習得することを目的とする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「ガイダンス」 栄養の必要性を知る	①栄養のことを学ぶ意義と目的を知る。	太田侑亜

2	後期	「炭水化物」 炭水化物の種類、身体における役割について知る。	①炭水化物が体内でどのような働きをするかを説明できる。	太田侑亜
3	後期	「脂質」 脂質の種類、身体における役割について知る。	①脂質が体内でどのような働きをするかを説明できる。	太田侑亜
4	後期	「タンパク質」 タンパク質の種類、身体における役割について知る。	①タンパク質が体内でどのような働きをするかを説明できる。	太田侑亜
5	後期	「ビタミン」 ビタミンの種類、身体における役割について知る。	①ビタミンが体内でどのような働きをするかを説明できる。	太田侑亜
6	後期	「ミネラル（無機質）」 ミネラル（無機質）の種類、身体における役割について知る。	①ミネラル（無機質）が体内でどのような働きをするかを説明できる。	太田侑亜
7	後期	「機能性成分」 機能性成分の種類、身体における役割について知る。	①機能性成分が体内でどのような働きをするかを説明できる。	太田侑亜
8	後期	「これまでのまとめ、試験」	①栄養素の役割や必要性について理解できる ②試験	太田侑亜
成績評価方法		試験による成績（100点）により評価する。授業中の態度など（例：居眠りなど）により減点することあり。		
準備学習など		なし		

学科・年次	作業療法科・1 学年
科目名	リハビリテーション学
担当者	山内 太郎
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義・グループワーク
教科書・参考書	・サブノート ・リハビリテーションビジュアルブック 第2版 学研

授業概要と目的
リハビリの内容や流れを知ること、今後の実習や将来就く仕事が明確になる。リハビリの語源から学び、チーム医療の大切さを知るため他職種の仕事をグループで調べ、理解を深める。また、リハビリをする上で必要な評価内容や扱う疾患についてもグループで調べ、後期や 2 年次の授業をスムーズに取り組めるようにする。グループ学習を取り入れることにより、眠くならず楽しく学べる。 なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものがその経験を活かして「リハビリテーションとは何か」等の内容を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「リハビリテーションの語源と定義」 リハビリテーションとは何か、領域や定義を知る。 ・医学的、教育的、職業的、社会的の領域を知る。	「リハビリテーションという言葉の由来」 ・今までの人生で知り得た自分の考えるリハビリをグループで出し合い、知識を広げる。 ・定義を知ること、これから目指していく作業療法士の仕事を推論する「リハビリテーション医療について」 ・リハビリテーションの流れを説明出来る。	山内太郎
2	前期	「リハビリテーションの環」 急性期・回復期・生活（維持）期・終末期を知る。	・各期を調べて、理解を深めることができる。	山内太郎
3	前期	「医療従事者とチーム」 ・多職種の仕事を理解する ・チーム医療の大切さを知る	「多職種をグループで調べる」 医師・PT・OT・NS・ST・CP・MSW・PSW・PO・薬剤師・管理栄養士の仕事を調べて発表する。	山内太郎
4	前期	「障害と分類」 障害の分類を学び、ICIDH と ICF の考え方を知る	「障害とは何か」 ・先天性、病気と共存する障害、後遺症として残る障害を分類する 「ICIDH と ICF」 ・一方向的な考え方（ICIDH）と相互的な考え方（ICF）の図が描ける。	山内太郎

5	前期	「リハビリテーション医療」 リハビリテーションの流れを知る 「障害受容」 障害受容の期を知る	・リハビリテーションの診断から評価と治療までの流れを説明出来る。 ・クリニカルパスの目標や目的を述べる。 ・クリニカルパスの国試過去問が解ける。 ・障害の受容についての期があり、その中でリハビリをしていく事を推論する。	山内太郎
6	前期	「保険制度」(医療保険・介護保険・自立支援法)について知る	・医療保険・介護保険・自立支援法について講義を受けその違いを理解する。 ・就労移行支援、就労継続支援の違いを理解する。	山内太郎
7	前期	「疾患に対するリハビリテーションの理解①」 作業療法士が関わる主な疾患の特徴や扱う評価を知る	・脳血管障害 ・神経筋疾患 ・運動器疾患 をグループで調べ、理解できる。	山内太郎
8	前期	「疾患に対するリハビリテーションの理解②」 作業療法士が関わる主な疾患の特徴や扱う評価を知る	・呼吸器疾患 ・心疾患 ・糖尿病 をグループで調べ、理解できる。	山内太郎
9	前期	「疾患に対するリハビリテーションの理解③」 作業療法士が関わる主な疾患の特徴や扱う評価を知る	・がん ・廃用症候群 ・脊髄損傷 ・切断 ・小児の疾患 をグループで調べ、理解できる	山内太郎
10	前期	「疾患に対するリハビリテーションの理解④」 作業療法士が関わる主な疾患の特徴や扱う評価を知る	各疾患をグループ内で発表する。 発表を通して他の疾患も理解でき、自分が調べたものに関しては長期記憶として身につく。	山内太郎
11	前期	「障害に対するリハビリテーション①」 障害に対する評価の必要性を知る	・評価の目的を述べる ・作業療法士が患者さんを知る上で評価が必要になる事を述べる。 ・自分以外の人が評価をしても同じ結果が出る事の大切さを説明できる	山内太郎
12	前期	「障害に対するリハビリテーション②」 障害像とその障害に対する評価を知る	・関節可動域障害 ・筋力低下 ・筋緊張異常 ・感覚障害 教科書を参考に調べグループ内で発表し、理解を深める。	山内太郎
13	前期	「障害に対するリハビリテーション③」 障害像とその障害に対する評価を知る	・協調性障害 ・運動麻痺 ・平衡機能障害 ・痛み 教科書を参考に調べグループ内で発表し、理解を深める。	山内太郎

14	前期	「障害に対するリハビリテーション④」 障害像とその障害に対する評価を知る 「地域包括支援について」 リハビリと地域包括支援の関係性を知る	・基本動作障害 ・歩行障害 ・高次脳機能障害 ・ADL 障害 教科書を参考に調べグループ内で発表し、理解を深める。 ・地域包括支援について調べて発表し、内容を共有する。	山内太郎
15	前期	「まとめと試験」 作業療法士が関わるリハビリテーションについて理解する。	・ICIDH や ICF の関連図が描ける ・作業療法士が関わる評価の名前を覚える ・多職種を覚える ・授業を通してリハビリテーションの概要を述べることができる。	山内太郎
成績評価方法		授業態度 10 点 筆記試験 90 点 合計 100 点		
準備学習など		PTOT 国家試験共通問題キーワード 1800 に目を通しておく 教科書を確認しておくこと		
留意事項		授業内容がグループ学習を中心とするため、時間配分の変更がある。 (内容の変更は特になし)		

学科・年次	作業療法科・1年次
科目名	作業療法概論 I
担当者	角本 裕之進
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	標準作業療法学 作業療法学概論 第4版 サブノート（毎回配布）

授業概要と目的
作業療法士の資格取得を目指す初学者に対し、「作業療法士の専門性」や医療職における「専門職としての位置づけ」などを伝達し理解度を深めていく。また、作業療法の本質、現在に至るまでの歴史的な流れ、現場で活躍する方々の声などを通して、将来自分になりたい作業療法士像を考えるきっかけを作る。 なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「作業療法とは」 ・作業療法を実践できるようになるために、作業の意味や作業療法の原理を理解し、積極的に学習していく態度を身につける	「作業療法の定義」 ・作業療法の定義 ・作業の意味 などについてサブノートを通して学習し、説明することができる。	角本裕之進
2	前期	「作業療法の原理」 作業療法の原理について理解する 作業療法のルーツを通して作業療法の根幹をなす考え方を理解する。	「作業療法のルーツ」 ・道徳療法 ・欧州から米国への流れ ・米国における発展 ・日本への導入 についてサブノートを使用して学習し、概要について説明できる。	角本裕之進
3	前期	「リハビリテーションの歴史と作業療法」	・リハビリテーションの定義を述べることができる ・リハビリテーションにおける作業療法の位置づけを述べることができる ・作業療法における ICF の使用について述べるができる	角本裕之進
4	前期	「作業療法の領域」 作業療法士が働く職場を具体的にイメージすることができる	・作業療法実施までの流れを述べるができる ・医療現場、介護現場、福祉現場などの違いを述べるができる	角本裕之進

5	前期	「作業療法の理論」 ICF モデルを理解する	「ICIDH と ICF」についてサブノートを通して学習しリハビリテーションの根底にある基本的な考え方について説明できる。 ・ICF の心身機能、身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子を述べる	角本裕之進
6	前期	「作業療法および作業療法士に関する法律」	・作業療法の法的根拠 ・名称独占とはなにか列挙する ・作業療法の教育制度などを述べるができる	角本裕之進
7	前期	「医療倫理と作業療法士に求められる資質・適性」 ・医学が優先された時代から、個人の権利が重視される時代への変遷を理解する。	・医療における生命倫理について資料を通して学習し説明できる。 ・インフォームドコンセントとは何か、実例を通して説明できる。	角本裕之進
8	前期	「多職種連携によるチームアプローチ」① ・多職種のチームで行われる現代の医療行為について理解する。 ・作業療法士に求められる役割について理解する。	・医療現場におけるチーム医療について作業療法士の立場、連携の取り方についてサブノートを通して学習し、説明できる。	角本裕之進
9	前期	「多職種連携によるチームアプローチ」② ・多職種のチームで行われる現代の医療行為について理解する。 ・作業療法士に求められる役割について理解する。	・多職種連携についてグループで調べ発表することができる ・協働の実際について知ることができる	角本裕之進
10	前期	「EBM と作業療法」 ・現場で期待される作業療法士の役割について、キーワードを通して理解する。	作業療法のキーワードである「基本動作」「ADL」「EBM」について資料を通して学習する。 ・基本動作から応用動作 ・日常生活活動 ・エビデンス	角本裕之進
11	前期	「作業療法の実践課程」① ・作業療法の目的を理解する ・評価と問題点の抽出 ・資料を通して現場で活躍する作業療法士の存在を理解する。	・現場で活躍する作業療法士の実例を知り、どのように作業療法が実践されているのか理解する。また患者様と接するうえで大事なことは何か説明できる。	角本裕之進
12	前期	「作業療法の実践課程」② ・作業療法の目的を理解する ・評価と問題点の抽出 ・治療、指導、援助計画 ・作業療法における思考過程と態度について理解する	・作業療法士の資格取得までにどのような能力が求められるのか、資料を通して学習し、説明できる。 ・リハビリテーション従事者特有の「思考の流れ」「治療推論の方法」について資料を通して学習し説明できる。	角本裕之進

13	前期	作業療法部門での管理・運営 ・管理運営の要素を理解する	・施設の概要と作業療法部門の位置づけを述べることができる ・施設基準を述べることができる ・「マネジメントとは」を述べることができる	角本裕之進
14	前期	「作業療法の記録と報告」 臨床現場で実際に行われる作業療法の記録について理解する。	・作業療法実施記録（プログレスノート）の作成方法を述べるができる ・SOAP を記載することができる	角本裕之進
15	前期	「まとめと試験」 これまでの授業の総まとめを念頭に、基本用語の確認を行う。	「まとめと試験」 ・医療における基本用語、リハビリテーションにおける基本用語などの確認を行い、学校で行われるその他の授業での理解に役立てる。	角本裕之進
成績評価方法		出席点 10 点 筆記試験 90 点 合計 100 点		
準備学習など		特になし		

学科・年次	作業療法科・1年次
科目名	基礎作業学総論
担当者	本多亜希子
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義と課題（個人とグループ）
教科書・参考書	・プリント資料

授業概要と目的
作業療法における「作業活動」とはどのようなものか。基礎作業学各論Ⅰで行う作業活動を実際に「作業分析」の課題として取り組むことで「作業」を「分析する」ことを実践的に学ぶ。個人だけでなく、グループで課題作成することで様々な視点に気づき、リハビリテーション全般における作業療法の位置づけについて学ぶ。 なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「オリエンテーション」 「基礎作業学とは」	「オリエンテーション」 ・授業の流れ、課題全般について把握する。 「基礎作業学とは」 ・基礎作業学とは何か、主体にしているものを実際の例を挙げて理解できる。	本多亜希子
2	前期	「作業の活用」 ・作業とは、作業を活用することとは何かを学ぶ。 「作業的存在」 ・作業的存在とは何かを学ぶ。	「作業の活用」 ・作業とは、作業を活用することとは何かを理解できる。 「作業的存在」 ・人的、物的環境も作業をする対象者に大きく影響を及ぼすことを理解できる。	本多亜希子
3	前期	「3つの包括的概念」 ・3つの包括的概念を学ぶ。 「ICFと作業評価項目」 ・ICFの構造、特徴について学ぶ。	「3つの包括的概念」 ・3つの包括的概念を学び、再度、環境の大切さについて確認できる。 「ICFと作業評価項目」 ・ICFの構造、特徴について理解できる。	本多亜希子
4	前期	「作業分析」 ・作業分析の目的、作業の特性について学ぶ。	「作業分析」 ・作業分析の目的について学び、作業の特性には何が含まれるのか確認できる。 ・基礎作業学各論Ⅰで学んだ作業活動をまず、治療要素として課題に取り組み、大きく捉えることができる。	本多亜希子
5	前期	「工程分析、動作分析、運動分析」について ・それぞれの違いを学ぶ。 ・工程分析の一般的方法について学ぶ。	「工程分析、動作分析、運動分析」 ・3つの分析の違いについて実際に例を挙げて理解する。 ・工程分析の一般的方法を理解できる。	本多亜希子

6	前期	「工程分析」 「作業過程の特徴」 ・実際に分析をし、工程分析について学ぶ。	・工程分析について、基礎作業学各論Ⅰでの作業を取り上げ、分析をし、工程分析の流れを理解する。 ・ひとつの道具、工程を取り出し、特徴を捉えることができる。	本多亜希子
7	前期	「身体運動技能分析」について ・身体運動技能分析について学ぶ。	「身体運動技能分析」 ・課題の内容を説明後、各自学生が分析課題に取り組む。教員は教室内を巡回していつでも質問を受け付け、課題作成のサポートをする。	本多亜希子
8	前期	「身体運動技能分析」① ・課題に取り組む、身体運動技能分析を学ぶ。	「身体運動技能分析」① ・課題に取り組む、身体運動技能分析を通じて、身体運動に視点をのいた分析を理解する。	本多亜希子
9	前期	「身体運動技能分析」② ・課題に取り組む、身体運動技能分析を学ぶ。	「身体運動技能分析」② ・課題に取り組む、身体運動技能分析を通じて、身体運動に視点をのいた分析を理解する。	本多亜希子
10	前期	「一般的分析」について ・一般的分析について学ぶ。	「一般的分析」 ・課題の内容を説明後、小グループにて分析課題に取り組む。教員は教室内を巡回していつでも質問を受け付け、課題作成のサポートをする。	本多亜希子
11	前期	「一般的分析」① ・課題に取り組む、一般的分析について学ぶ。	「一般的分析」① ・グループにて課題に取り組む、身体、精神、コミュニケーションを含めた分析を理解する。	本多亜希子
12	前期	「一般的分析」② ・課題に取り組む、一般的分析について学ぶ。	「一般的分析」② ・グループにて課題に取り組む、身体、精神、コミュニケーションを含めた分析を理解する。	本多亜希子
13	前期	「フィドラー分析」について ・フィドラー分析について学ぶ。	「フィドラー分析」 ・課題の内容を説明後、小グループにて分析課題に取り組む。教員は教室内を巡回していつでも質問を受け付け、課題作成のサポートをする。	本多亜希子
14	前期	「フィドラー分析」① ・課題に取り組む、フィドラー分析について学ぶ。	「フィドラー分析」① ・グループにて課題に取り組む、精神分析について理解する。	本多亜希子

15	前期	「フィドラー分析」② ・課題に取り組み、フィドラー分析について学ぶ。	「フィドラー分析」② ・グループにて課題に取り組み、精神分析について理解する。	本多亜希子
成績評価方法		出席 (10%)、治療要素 (5%)、工程分析 (15%)、身体運動技能分析 (20%)、一般的分析 (30%)、フィドラーの分析 (20%) 合計 100 点		
準備学習など		基礎作業学各論 I で行う作業の道具の名前を覚えておくこと。		

学科・年次	作業療法科 1 年次
科目名	基礎作業学各論 I
担当者	木村映美・田中敏彦
単位数 (時間数)	2 単位 (60 時間)
学習方法	実習
教科書・参考書	

授業概要と目的
作業療法における「創作活動」の基礎的な知識と技法を習得し、各活動の特性、使用する道具、必要な工程を理解する。 なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「篆刻・ステンドグラス・革細工」 ・篆刻の特性を知り、道具・工程を理解する。 ・ステンドグラスの特性を知り、道具・工程を理解する。 ・革細工の特性を知り、道具・工程を理解する。	「印鑑作成」・「ステンド鏡作成」・「小銭入れ作成」 ・篆刻に必要な道具・工程を列挙できる。 ・ステンドグラス作成に必要な道具・工程を列挙できる。 ・革細工に必要な道具の名称を列挙できる。 ・小銭入れ作成の工程を列挙できる。 ・革細工の作成方法 (2 種類) の名称と特徴を列挙できる。	木村映美 田中敏彦
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

13	前期	「木工・陶芸」 ・木工の特性を知り、道具・工程を理解する。 ・陶芸の特性を知り、道具・工程を理解する。	「木彫作成」・「食器等作成」 ・木工作成に必要な道具の名称を列挙できる。 ・木彫の工程を列挙できる。 ・木工の持つ特性を述べることができる。 ・陶芸に必要な道具の名称を列挙できる。 ・陶芸の工程を列挙できる。素焼きと本焼きの温度、時間数を述べることが出来る。 ・陶芸の持つ特性を述べることができる。	木村映美 田中敏彦
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25	前期	「トルコ風アロマランプ」 「七宝焼き」、「小皿作成」	・トルコ風アロマランプ、七宝焼き作成に必要な道具・工程を列挙できる。	木村映美 田中敏彦
26				
27				
28				
29				
30				
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって成績評価の対象とする。 5 つの作品をすべて完成させ提出すること。 提出状況と作品の完成度で評価する。(100 点)		
準備学習など				

学科・年次	作業療法科 1 学年
科目名	基礎作業学各論Ⅲ
担当者	木村 映美
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義と演習
教科書・参考書	・サブノート・音楽ノート（学校で配布）

授業概要と目的
主にキーボードの演奏技法を中心に学ぶ。両手で 1 曲弾けるようにし、実際の臨床現場でのレクリエーションに活用できるようにする。また、音楽とリハビリとの関係性を理解することで、治療内容に取り入れる事が出来る。 音楽の基礎知識から学ぶことで初心者でも安心して習得できる。 なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「音楽と作業療法」 ・音楽療法と歴史を理解し、音楽と作業療法の効果を知る。	・音楽療法とは何かを理解し、作業療法で音楽を用いる目的や効果を知ることが出来る。	木村映美
2	後期	「音楽の基礎知識」 ・初心者でも基礎知識を習得できる。 ・簡単譜面が描けるようになる	・音の名前、長さ、種類、休符、拍子の記号について述べる ・譜面の読み方を演習する ・臨時記号、速度・強弱について述べる ・コードを確認する ・初心者でも読める譜面を作成する	木村映美
3	後期	「キーボード操作」 ・キーボードの操作方法を習得する。	・グループに分かれ、キーボードのボタンを理解し実際に弾いてみる ・指番号の基本を練習する	木村映美
4	後期	「キーボード演習」① ・右手が弾けるようになる	・指番号通りに何度も練習をする	木村映美
5	後期	「キーボード演習」② ・左手が弾けるようになる	・指番号通りに何度も練習をする	木村映美
6	後期	「キーボード演習」③ ・両手で弾けるようになる ・リズムとトーンとテンポを作動させて合わせていく	・両手で弾けるように何度も練習し、つまづく小節を繰り返し練習する ・キーボードのリズムとトーンとテンポに合わせて練習する	木村映美
7	後期	「キーボード演習」④ ・自分一人でキーボード操作から出来るようになる ・1 曲弾けるようになる	・実際に演奏できるように最初から 1 人で操作できるように確認をする ・1 曲スムーズに弾けるようになるまで練習をする	木村映美

8	後期	「まとめと試験」① ・レクリエーションなどの活動で弾けるようになる	・クラス全員の前で弾けるように発表する ・つまずいても音楽を途切れさせないようにしていく	木村映美
9	後期	「キーボード演習」⑤ ・自分の担当パートを弾いてみる	・両手で弾けるように何度も練習し、つまずく小節を繰り返し練習する	木村映美
10	後期	「キーボード演習」⑥ ・自分の担当パートを両手で弾けるようになる	・両手で弾けるように何度も練習し、つまずく小節を繰り返し練習する	木村映美
11	後期	「キーボード演習」⑦ ・グループで曲を合わせて弾いてみる	・グループで曲を合わせて何度も練習する ・つまずく小節を繰り返し練習する	木村映美
12	後期	「キーボード演習」⑧ ・キーボードのリズムとトーンを作動させて合わせていく	・グループでキーボードのリズムとトーンに合わせて練習する	木村映美
13	後期	「キーボード演習」⑨ ・リズムとトーンとテンポを作動させて合わせていく	・グループでキーボードのリズムとトーンとテンポに合わせて練習する	木村映美
14	後期	「キーボード演習」⑩ ・グループでキーボード操作から出来るようになる ・時間内スムーズに弾けるようになる	・実際に演奏できるように最初からグループで操作できるように確認をする ・時間内スムーズに弾けるようになるまで練習をする	木村映美
15	後期	「まとめと試験」② ・レクリエーションなどの活動で弾けるようになる	・クラス全員の前で弾けるように発表する ・つまずいても音楽を途切れさせないようにしていく	木村映美
成績評価方法		授業態度 10 点 実技試験 90 点 合計 100 点		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	作業療法科・1年次
科目名	精神障害評価学
担当者	田中敏彦
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義・演習（一部）
教科書・参考書	精神障害と作業療法 精神障害評価学サブノート（9冊）

授業概要と目的
作業療法士が対象とする分野の一つである精神障害分野の最初の科目として、精神障害の特徴を学び、それに対する援助としての精神科作業療法を理解する。精神科作業療法の中でも作業療法を行う上で必須となる評価技法についてその意義・目的・方法を理解する。 なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「精神疾患と精神障害の理解」 精神科で扱われる疾患の種類と日本の精神疾患の現状を理解する。	「精神疾患の種類と現状」 ・精神科で扱われる精神疾患を ・日本の精神疾患の患者数の推移を説明できる。	田中敏彦
2	後期	「精神障害の理解」 精神障害と身体障害の違いを理解する。	「精神障害と身体障害の違い」 教科書に記載されている「精神障害と身体障害の違い」7項目を簡潔にサブノートに記入できる。	田中敏彦
3	後期	「差別と偏見」 「病める心の臨床」の一部を読んで、差別について理解する。	「精神障害への差別の歴史と現状」 ・「この国に生まれた不幸（呉秀三）」の意味を説明できる。 ・「病める心の臨床」を読んで差別に対する自分の考えを述べることができる。	田中敏彦
4	後期	「精神科リハビリテーション」 ・精神科リハビリテーションに関わる職業を知る。 ・「関わり」と「枠組み」の関係を理解する。	「関りと枠組み」 ・心理的処理が「近い場合」と「遠い場合」、「中間の場合」の対象者との関係性を説明することが出来る。 ・「関り」と「枠組み」の関係によって行われるもの4つを答えることが出来る。	田中敏彦
5	後期	「精神科で働くうえで必要とされること」 ・自分を客観的にみることの必要性を知り、メタ認知の概念を理解する。 「ジョハリの窓」、「東大式エゴグラム」といったツールを用いて自分の性格傾向を理解することが	「自己理解と価値観」 ・メタ認知について説明できる。 ・ジョハリの窓の構造が説明できる。 ・東大式エゴグラムを用いて自分の性格分析が出来る。	田中敏彦

		出来る。		
6	後期	「統合失調症①」 ・統合失調症の発症原因の研究の歴史を知り、現在の発症仮説を理解する。 ・統合失調症の代表的な症状を理解する。	「統合失調症の発症仮説と症状」 ・「遺伝説」・「家族原因説」の根拠と問題点を説明できる。 ・「ストレス脆弱性モデル」の機序を説明できる。 ・「陽性症状」と「陰性症状」の違いを説明でき、それぞれ代表的な症状を2つずつ述べる事が出来る。	田中敏彦
7	後期	「統合失調症②」 ・ICF の観点から統合失調症の「心身機能」・「活動」・「参加」の制限因子を理解する。	「統合失調症の心身機能・活動・参加の制限」 ・認知行動障害（情報処理過程の障害）について説明できる。 ・統合失調症の行動特性が5つサブノートに記入することができる。 ・統合失調症の生活障害を5つサブノートに記入することが出来る。	田中敏彦
8	後期	「統合失調症の理解①」 精神疾患の代表的疾患である統合失調症について、「統合失調症②」で学んだ症状や制限を映像で理解する。	「ビューティフルマインド」 ・感想文として、ジョンナッシュに現れた症状、ナッシュが生活上で困ったことについて述べる事が出来る。	田中敏彦
9	後期			
10	後期	「統合失調症の理解②」 統合失調症の経過を理解し、「急性期」・「回復期（前・後）」・「維持期」の病態と症状について理解する。	「統合失調症の経過」 ・統合失調症の経過を表す波形を図示することができ、それぞれの時期の名称と起こりうる症状を列挙できる。 ・ジョンナッシュの経過を波形で図示することが出来る。	田中敏彦
11	後期	「精神科リハビリテーション」 ・精神科リハビリテーションが行われる場所・施設の種類を知る。 ・精神障害の回復過程とライフサイクルによる援助の違いを理解する。	「精神科リハビリテーションの構造」 ・「精神症状の回復」と「生活能力の向上」の違いをサブノートに記入することができる。 ・ライフサイクルにおける援助の課題を10代～60代までそれぞれの年代で1つずつ列挙できる。	田中敏彦
12	後期	「精神科作業療法①」 作業療法の効果には「客観的効果」と「主観的効果」があることを知り、それぞれの効果は具体的にどのようなものかを理解する。	「精神科作業療法の効果」 ・「主観的効果」と「客観的効果」の違いを説明できる。 ・精神科作業療法ではどちらの効果が大きいのかを答えることが出来る。	田中敏彦

13	後期	「精神科作業療法②」 教科書・サブノートの図を参考に、精神科作業療法を構成している要素を知り、その要素が関係し合って構成されている作業療法の構造を理解する	「精神科作業療法の構造と要素」 ・精神科作業療法を構成する要素をサブノートに記入することができる。 ・それぞれの要素の関係が説明できる。	田中敏彦
14	後期	「精神科作業療法③」 ・精神科作業療法で用いる作業活動には多くの要素が含まれていることを知り、各活動にはその活動が持っている特異的な要素があることを理解する。 ・「目的として用いる」場合と「手段として用いる場合」とで同じ活動でも用い方が異なることを理解する。	「精神科作業療法の使い方」 ・基礎作業学各論Ⅰで学んだ活動の一つから、その活動が特異的に持っている要素を列举できる。 ・「目的として用いる」と「手段として用いる」ことの違いを説明できる。	田中敏彦
15	後期	「精神科作業療法④」 精神科作業療法では作業療法士個人が持つ「個人的要素」が治療上大きく影響することを知り、どのような個人的要素が相手にどのように作用するのかを理解する。	「自己の治療的活用」 ・自己の治療的活用について概略を説明できる。 ・サブノートに記載されている自己の持つパーソナリティの影響（4つ）のうち1つを説明できる。	田中敏彦
16	後期	「精神科作業療法⑤」 精神科作業療法の特徴に集団を用いることがあり、集団の特性と傾向を知ること、集団療法を行うことの効果を理解する。	「集団作業療法と集団分類」 ・集団の効果（なぜひとは集まるのか？）を8つサブノートに記入することが出来る。 ・集団力動（グループダイナミクス）について簡潔にサブノートに記入できる。	田中敏彦
17	後期	「精神科作業療法⑥」 精神科作業療法で用いる集団療法（3種類）の形態を知り、それぞれの集団療法の特徴と効果を理解する。	「集団作業療法の使い方」 ・集団作業療法の形態を3種類サブノートに記入できる。	田中敏彦
18	後期	「精神科作業療法⑦」 個人作業療法の形態（2種類）を知り、それぞれの形態の用いられる疾患の時期、特徴を理解する。	「個人作業療法」 ・個人作業療法の形態を2種類サブノートに記入できる。 ・マンツーマンとパレレルの違いを説明できる。	田中敏彦
19	後期	「評価技法①」 「評価」の目的と意義を理解し、評価の流れと技法（4種類）を理解する。	「横断的評価と縦断的評価」 ・評価の技法を4種類サブノートに記入できる。 ・「横断的評価」と「縦断的評価」の違いをサブノートに記入できる。	田中敏彦

20	後期	「評価技法②」 「情報収集」の目的として、精神科作業療法での「縦断的評価」の重要性を理解する。	「情報収集」 「嫌われ松子の一生」の感想文として、「縦断的評価」の重要性と、それによる「第一印象」の捉え方を述べる事が出来る。	田中敏彦
21				
22	後期	「評価技法③」 面接を行う上で、面接者に必要とされる6つの態度の内容と意義を理解する。	「面接の技法」6つの態度 ・職業的態度としての6つの態度を列挙できる。	田中敏彦
23	後期	「評価技法④」 「面接技法①」で学んだ6つの態度を実現する方法として、面接者が身につけておくべき10に面接技法を理解する。	「面接の技法」10の技法 ・6つの態度を実現する方法としての10の技法を対学生との演習で体験し、取り組む事が出来る。	田中敏彦
24	後期	「評価技法⑤」 評価技法としての「観察」について、観察の方法、種類、観るべき項目、観察者が相手に与える影響について理解する。	「観察」 ・ウォッチングリストを用いて、対学生との演習で観察事項の結果をチェックすることができる。 ・対学生との演習で対人パターンチェックリストを記入することが出来る。 ・「関与しながらの観察」について概略を説明できる。	田中敏彦
25	後期	「評価技法⑥」 ・精神科で用いられる検査・測定の評価バッテリーの種類を知り、国家試験に出題されやすいものを把握する。 ・興味関心チェックリスト・LASMIについて概説と方法を理解する。	「検査・測定」 ・「検査・測定」についてサブノートの「チャレンジ国試」(2問)を解く事が出来る。 ・LASMIの意義と評価内容を説明することが出来る。	田中敏彦
26	後期	「評価技法⑦」 「情報収集」・「面接」・「観察」・「検査・測定」から得られたデータを項目ごとにまとめ、優位点・問題点を列挙する流れを理解する。	「評価のまとめ」 ・評価のまとめとして用いる項目を4つ列挙できる。 ・優位点・問題点の列挙とICFの概念図を理解できる。	田中敏彦
27	後期	「演習」 ケーススタディとして架空のケースを題材に、実際に優位点・問題点の列挙、焦点化を行い、それをICFに分類することを体験する。	「ケーススタディ」 配布されたケースの情報をもとに、グループで検討し、位点・問題点の列挙、焦点化を行い、それをICFに分類して図示することができる。	田中敏彦
28	後期			
29	後期	「臨床現場での場面スタディ」 臨床現場でのさまざまな場面のケースをグループで話し合い、対象者理解の必要性和幅広い視点の大切さを学ぶ。合わせて精神科領域の作業療法の魅力を知る。	「精神科領域の作業療法の視点の理解」 「環境因子へのアプローチの必要性」、「対象者との関係性」、「援助の基準の再検討」、についてさまざまな考えがあること、どのような視点が必要かを理解できる。	

30	後期	「試験とまとめ」 筆記試験を通して、各回の講義内容を理解する。	サブノートに記入した事柄を理解し、覚えることができる。 サブノートに記載されている「チャレンジ国試」の問題を解くことができる。	田中敏彦
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習など				

学科・年次	作業療法科 1 学年
科目名	発達障害評価学
担当者	木村映美・西岡 彩
単位数（時間数）	1 単位 30 時間
学習方法	西岡：講義・グループワーク 木村：講義・グループワーク
教科書・参考書	西岡：教科書 なし（授業資料を配布） 木村：教科書 なし（授業資料を配布）

授業概要と目的	
発達障害にはどのようなものが有り、その特徴が分かるとともに、評価はどのようにされるのかを理解する。主だった発達障害の特徴と鑑別ができるようになる。発達検査はどのようなものかが分かり、利用の仕方、結果の読み方が分かる。なお、作業療法士として臨床経験のある者がその経験を活かして授業を行う。（木村映美）	
発達障害分野の施設等で臨床経験がある作業療法士が「重症心身障害」「脳性麻痺」の内容を担当する。実際の臨床場面での道具や動画などを通して、疾患像を理解するとともに、国家試験に対応できるよう評価方法など学んでいく。（西岡彩）	

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「発達障害」 一般目標 発達障害とはどのようなものか、 診断基準と特徴を理解する。	「発達障害とは」 到達目標 それぞれの発達障害の定義が言える。 それぞれの発達障害の特徴が言える。 ことばの発達の基礎となる力、感覚器の発達 が分かる。	木村映美
2	後期	「発達障害」 一般目標 構音障害、その他の障害について、 診断基準と特徴を理解する。	「自閉症スペクトラム障害とは」 到達目標 構音障害の分類と特徴を説明できる。 その他の障害の特徴を説明できる。	木村映美

3	後期	「SST」 SST とはどのようなもので、どのように利用するのか理解する。	「SST とは」 心理検査の分類、効用と限界、実施上の注意点が説明できる。	木村映美
4	後期	「SST」 代表的な道具類、プログラムを用いて、実施内容を理解する。	「SST プログラムの体験・実施①」 実際に SST プログラムとして使用されている道具類を使用して SST プログラムの立案・実施を体験してみる。	木村映美
5	後期	「SST」 代表的な道具類、プログラムを用いて、実施内容を理解する。	「SST プログラムの体験・実施②」 自分が担当したプログラムの内容を他のグループに説明することができる。	木村映美
6	後期	「SST」 代表的な道具類、プログラムを用いて、実施内容を理解する。	「SST プログラムの体験・実施③」 自分が担当したプログラムの内容を他のグループに説明することができる。	木村映美
7	後期	「まとめ」 まとめを通して講義全般の要点を理解する	「まとめ」 講義全般の要点を再確認し、述べることができる	木村映美
8	後期	「小児作業療法 導入」	小児作業療法について動画などを通して学んでいく。 感覚統合療法について概要を理解する。	西岡彩
9	後期	「玩具の分析」	玩具を作製し、その玩具からどのような活動ができるのか理解する。 レポートにまとめ、提出することができる。	西岡彩
10	後期	「脳性麻痺」	脳性麻痺の定義について説明できるようになる。 脳性麻痺の特徴について知る。	西岡彩
11	後期	「重症心身障害」	重症心身障害について特徴を知ることができる	西岡彩
12	後期	「小児領域の評価」	作業療法士が行う評価、国家試験で出題される評価について知る。 一部、作業療法士は評価を行わない発達検査についても紹介する。	西岡彩
13	後期	「小児領域の評価」	作業療法士が行う評価、国家試験で出題される評価について知る。	西岡彩
14	後期	症例検討	講師が提示した症例についてグループワークを通して必要な評価などを立案できる。	西岡彩

15	後期	症例検討 まとめ	前講義でまとめた内容を発表する。 講義内容について振り返り、改めて自分の理解度について確認する。	西岡彩
成績評価方法		西岡・木村：科目試験（筆記試験（100%））にて100点満点で60点以上を合格とする。 西岡・木村の担当分を合算する。（比率は50%ずつ）		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	作業療法科・1学年
科目名	身体障害評価学Ⅰ
担当者	山口冴香
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義と実技
教科書・参考書	・標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 ・実践リハ評価マニュアルシリーズ 臨床ROM—測定からエクササイズまで ・新 徒手筋力検査法 原著第10版 協同医書出版社

授業概要と目的
関節可動域測定、徒手筋力検査法、など、臨床実習において必要な基本的な評価法を中心に解説および実習を行う。 なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「総論①」 評価とは何かを知る 検査とは何かを知る	「評価とは」言葉の意味を知る 「検査とは」言葉の意味を知る 評価とは、検査とはと聞かれたら口頭で説明することができる	山口冴香
2	後期	「総論②」 信頼性・妥当性・実用性 について知る	「信頼性・妥当性・実用性」の種類とそれ ぞれの説明をすることができる	山口冴香
3	後期	「形態計測①」 資料を見ながら四肢長の計測を行 うことができる	講義を受けたのち、実際にクラスメイト同 士ペアとなり測定を行う 指標となる部位を見て、触り生体における 位置関係を覚える	山口冴香

4	後期	「形態計測②」 資料を見ながら周径の測定および握力測定を行うことができる	講義を受けたのち、実際にクラスメイト同士ペアとなり測定を行う 指標となる部位を見て、触り生体における位置関係を覚える	山口冨香
5	後期	「関節可動域測定」総論 意義・目的を理解する	講義にて、関節可動域測定の意義、目的を知り、基本軸・移動軸・参考可動域という言葉を知る 測定器具の名称や種類を知る	山口冨香
6	後期	「関節可動域測定」各論① 上肢の関節可動域測定を行うことができる	グループ学習にて行う 「上肢関節において」 ゴニオメーターに触れ、グループメンバー同士計測しあうことができる 基本軸、移動軸について理解する	山口冨香
7	後期	「関節可動域測定」各論② 手指の関節可動域測定を行うことができる	グループ学習にて行う 「手指の関節において」 ゴニオメーターに触れ、グループメンバー同士計測しあうことができる 基本軸、移動軸について理解する	山口冨香
8	後期	「関節可動域測定」各論③ 下肢の関節可動域測定を行うことができる	グループ学習にて行う 「下肢関節において」 ゴニオメーターに触れ、グループメンバー同士計測しあうことができる 基本軸、移動軸について理解する	山口冨香
9	後期	「関節可動域測定」各論④ 頸部・体幹の関節可動域測定を行うことができる	グループ学習にて行う 「頸部・体幹の関節において」 ゴニオメーターに触れ、グループメンバー同士計測しあうことができる 基本軸、移動軸について理解する	山口冨香
10	後期	「関節可動域測定」各論⑤ 上肢・手指・下肢・頸部・体幹の関節可動域測定を他の肢位で行うことができる	グループ学習にて行う グループメンバー同士で、各部位の関節可動域を他の肢位でも測定しあうことができる 基本軸、移動軸について理解する	山口冨香
11	後期	「関節可動域測定」各論⑥ 上肢・手指・下肢・頸部・体幹の関節可動域測定を行うことができる	グループ学習にて行う 「復習」習った範囲について グループメンバー同士計測しあうことができる 基本軸、移動軸について理解する	山口冨香
12	後期	「関節可動域測定」各論⑦ 上肢・手指・下肢・頸部・体幹の関節可動域測定を行うことができる	グループ学習にて行う 「復習」習った範囲について グループメンバー同士計測しあうことができる 基本軸、移動軸について理解する	山口冨香

13	後期	「徒手筋力検査法」総論 意義・目的を理解する	講義にて、徒手筋力検査法の意義、目的を知り、測定段階 0～5 の強さを覚える	山口冨香
14	後期	「徒手筋力検査法」各論① 肩の動きと検査方法を覚える	グループ学習にて行う ・肩関節の運動と筋肉の作用、起始・付着について確認をする ・検査方法について講義を受け、実際にグループメンバーに対し検査を実践することができる	山口冨香
15	後期	「徒手筋力検査法」各論② 肘～手関節の動きと検査方法を覚えることができる	グループ学習にて行う ・肘～手関節の運動と筋肉の作用、起始・付着について確認をする ・検査方法について講義を受け、実際にグループメンバーに対し検査を実践することができる	山口冨香
16	後期	「徒手筋力検査法」各論③ 手指の動きと検査方法を覚えることができる	グループ学習にて行う ・手指の運動と筋肉の作用、起始・付着について確認をする ・検査方法について講義を受け、実際にグループメンバーに対し検査を実践することができる	山口冨香
17	後期	「徒手筋力検査法」各論④ 肩～肘関節の検査方法について復習をする	グループ学習にて行う ・肩～肘関節の検査方法について、教科書にて確認をする ・臥位や座位など姿勢を変えて、検査を実施することで、応用力をつける	山口冨香
18	後期	「徒手筋力検査法」各論⑤ 手関節～手指の検査方法について復習をする	グループ学習にて行う ・手関節～手指の検査方法について、教科書にて確認をする ・臥位や座位など姿勢を変えて、検査を実施することで、応用力をつける	山口冨香
19	後期	「徒手筋力検査法」各論⑥ 股関節の動きと検査方法を覚えることができる	グループ学習にて行う ・股関節の運動と筋肉の作用、起始・付着について確認をする ・検査方法について講義を受け、実際にグループメンバーに対し検査を実践することができる	山口冨香
20	後期	「徒手筋力検査法」各論⑦ 股関節の検査方法について復習をする	グループ学習にて行う ・股関節の検査方法について、教科書にて確認をする ・臥位や座位など姿勢を変えて、検査を実施することで、応用力をつける	山口冨香

21	後期	「徒手筋力検査法」各論⑧ 膝～足関節の動きと検査方法を覚えることができる	グループ学習にて行う ・膝～足関節の運動と筋肉の作用、起始・付着について確認をする ・検査方法について講義を受け、実際にグループメンバーに対し検査を実践することができる	山口冴香
22	後期	「徒手筋力検査法」各論⑨ 膝～足関節の検査方法について復習をする	グループ学習にて行う ・膝～足関節の検査方法について、教科書にて確認をする ・臥位や座位など姿勢を変えて、検査を実施することで、応用力をつける	山口冴香
23	後期	「徒手筋力検査法」各論⑩ 上肢の検査方法を復習する	グループ学習にて行う ・上肢の検査方法について、教科書にて確認をする ・臥位や座位など姿勢を変えて、検査を実施することで、応用力をつける	山口冴香
24	後期	「徒手筋力検査法」各論⑪ 下肢の検査方法を復習する	グループ学習にて行う ・下肢の検査方法について、教科書にて確認をする ・臥位や座位など姿勢を変えて、検査を実施することで、応用力をつける	山口冴香
25	後期	「徒手筋力検査法」各論⑫ 頸部の動きと検査方法を覚えることができる	グループ学習にて行う ・頸部の運動と筋肉の作用、起始・付着について確認をする ・検査方法について講義を受け、実際にグループメンバーに対し検査を実践することができる	山口冴香
26	後期	「徒手筋力検査法」各論⑬ 肩甲帯・体幹の動きと検査方法を覚えることができる	グループ学習にて行う ・肩甲帯・体幹の運動と筋肉の作用、起始・付着について確認をする ・検査方法について講義を受け、実際にグループメンバーに対し検査を実践することができる	山口冴香
27	後期	関節可動域検査法の実技とまとめ① 学習内容の客観的評価を実施する	・模擬患者相手に実技を披露することができる ・教員よりフィードバックを受ける	山口冴香
28	後期	関節可動域検査法の実技とまとめ② 学習内容の客観的評価を実施する	・模擬患者相手に実技を披露することができる ・教員よりフィードバックを受ける	山口冴香
29	後期	徒手筋力検査法の実技とまとめ① 学習内容の客観的評価を実施する	模擬患者相手に実技を披露することができる ・教員よりフィードバックを受ける	山口冴香
30	後期	徒手筋力検査法の実技とまとめ② 学習内容の客観的評価を実施する	模擬患者相手に実技を披露することができる ・教員よりフィードバックを受ける	山口冴香

評価方法	関節可動域検査法実技（50点）・徒手筋力検査法実技（50点）で採点をする（合計100点） 聞かれた内容にスムーズに答えることができ、指定された検査方法を行うことができれば合格とする。1回目で合格すれば50点、2回目で合格すれば45点と受けた回数により点数が異なる。
準備学習など	付属の Web 動画などで検査のイメージをつかむことが重要である。イメージ通り検査を実施することができているかをグループ間で共有できると良い。

学科・年次	作業療法科・1年次
科目名	日常生活活動学Ⅰ
担当者	山口冴香
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	・サブノート（授業中に配布） ・脳卒中の機能評価 SIAS と FIM [基礎編]

授業概要と目的
作業療法において必要な日常生活活動の基本的概念、範囲について理解する。 また作業療法の日常生活活動の障害の捉え方について学ぶ。 臨床現場にて実際に使用する日常生活活動の評価法の基礎について学ぶ。 各々、前回の授業の理解度を確認するため小テストを実施する。 なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「ADL の定義と位置づけ」 ADL とは何か、定義とリハビリテーションにおける ADL の位置づけを知る。	「ADL とは」 ・学生が各自、昨日の1日のスケジュールを書きだし、1日の中に含まれる ADL を確認し、理解する。 「リハビリテーションにおける ADL の位置づけ」 ・リハビリテーションの目標が時代とともに変化したことを理解する。	山口冴香
2	前期	「ADL の範囲」 ADL の範囲を学び、理解する。 「QOL の分類」 QOL の分類を学び、理解する。	「ADL の範囲」を知る。 ・誰でも毎日、繰り返し行う活動であることを理解する。 「QOL の分類」 ・QOL の分類を学び、具体例を挙げて理解する。	山口冴香
3	前期	「ADL に影響を与える要因」 ADL に影響を与える要因を学び、理解する。 「基本動作とは」 基本動作の定義、種類について学び、理解する	「ADL に影響を与える要因」 ・同じ活動でも要因によって自立度が異なることを理解する。 「基本動作とは」 ・基本動作の定義を学び、姿勢の名称を用いて説明できる。	山口冴香

4	前期	「基本動作実技」 実技を行うことでより理解を深める。	「基本動作実技」 ・片麻痺患者の寝返り、起き上がりの介助方法を実施し、理解する。 ・床からの立ち上がり、いざり移動を体験し、指導の仕方を学ぶ。	山口冴香
5	前期	「基本動作と日常生活活動とのつながり」 前回の実技をふまえて、日常生活活動とのつながりを理解する。	「基本動作と日常生活活動とのつながり」 ・それぞれの基本動作と日常生活活動とのつながりを理解する。	山口冴香
6	前期	「食事動作の自立支援」 食事動作の自立支援について理解する。	「食事動作の自立支援」 ・食事動作の自立支援を行うにあたり、作業療法士が食事動作の観察するポイント、検討することを学び、理解する。 ・自助具を実際に手に取り、対象者に合わせた自助具を選択できる。 ・非利き手で箸操作を行い、片麻痺患者の箸操作を体験し、理解する。	山口冴香
7	前期	「整容動作の自立支援」 整容動作の自立支援について理解する。	「整容動作の自立支援」 ・整容動作に含まれる過程、整容動作の特徴を学び、理解する。 ・整容動作に用いる自助具を手に取り、対象者に合わせた自助具を選択できる。	山口冴香
8	前期	「更衣動作の自立支援」 更衣動作の自立支援について理解する。	「更衣動作の自立支援」 ・更衣動作の範囲を学び、理解する。 ・片麻痺患者の服の着脱方法を実際に体験し、指導できる。 ・更衣動作の自助具を手に取り、対象者に合わせた自助具を選択できる。	山口冴香
9	前期	「排泄動作の自立支援」 排泄動作の自立支援について理解する。	「排泄動作の自立支援」 ・作業療法士が排泄動作の自立支援にあたって確認することを学び、理解する。 ・トイレ動作に必要な環境整備を学び、理解する。 ・片麻痺患者のトイレ動作の手順を学び、理解する。	山口冴香
10	前期	「入浴動作の自立支援」 入浴動作の自立支援について理解する。	「入浴動作の自立支援」 ・入浴動作の特徴を学び、理解する。 ・入浴動作の自立支援にあたり、入浴動作に必要な機能、環境について学び、理解する。 ・片麻痺患者の浴槽の出入りの仕方を学ぶ。	山口冴香
11	前期	「移動に用いる福祉用具について」 車椅子、杖、歩行器の種類、それぞれの特徴を知る。	「車椅子」 ・車椅子の種類、車椅子の各部の名称について学び、理解する。 ・車椅子の操作の仕方を学ぶ。 「杖」 ・杖の種類とそれぞれの杖の特徴について	山口冴香

			学び、理解する。 「歩行器」 歩行器の種類について学び、理解する。	
12	前期	「ADL の評価法」 ADL の評価法を知る。	「ADL の評価法」 Bathel Index と FIM の違い、それぞれの特徴を理解する。	山口冴香
13	前期	「FIM の運動項目」 FIM の運動項目、採点基準、評価尺度、それぞれの定義を知る。	「FIM の運動項目」 FIM の運動項目、採点基準、評価尺度、それぞれの定義をプリントに書き込み、理解する。	山口冴香
14	前期	「FIM の認知項目」 FIM の認知項目、採点基準、評価尺度、それぞれの定義を知る。	「FIM の認知項目」 FIM の認知項目、採点基準、評価尺度、それぞれの定義をプリントに書き込み、理解する。	山口冴香
15	前期	「まとめと試験」	それぞれの講義の重要ポイントを理解できたか筆記試験にて確認する。	山口冴香
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習など		日常生活活動とは誰でも毎日繰り返している活動のことで特別な活動ではありません。 今回の授業を踏まえて、意識して日常生活活動を見直してみましょう。		

学科・年次	作業療法科 1 学年
科目名	臨床実習 I
担当者	本多亜希子 山口冨香
単位数（時間数）	1 単位（45 時間）
学習方法	見学実習
教科書・参考書	各分野の教科書

授業概要と目的
臨床現場（デイケア施設や訪問リハビリテーション）で実際勤務している作業療法士を見学する。作業療法を学ぶ学生としての基本的態度の獲得を目標とし、その中で働く作業療法士の業務を知ることにより、職業への意欲や知識習得への動機づけを行う。 合わせて病院、施設の役割や機能を理解する。なお、作業療法士として、病院等で 5 年以上の臨床経験のあるものが実習を指導する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
5 日間 1 施設	後期	「施設見学」 デイケアあるいは訪問リハビリテーションについて見学する (当校では地域実習と呼ぶ) ・作業療法を学ぶ学生としての倫理観や基本的態度（挨拶・言葉遣い・態度など）を習得する。 ・作業療法の実際を見聞し、業務と役割を学ぶ。 ・病院の仕組みや役割を理解する。	・時間を守る、身だしなみ、良識ある行動、礼儀を守る、学ぼうとする態度、責任ある行動を示す。 ・1 日のスケジュールや学んだことをデイリーノートに記載する。 ・個人で 1 病院を発表する。	実習指導者 本多亜希子 山口冨香
成績評価方法		・出席、実習態度、デイリーノートの内容で評価する（80 点） ・学んできた事を発表し、その内容と態度で評価する（20 点） 合計 100 点		
準備学習など		実習までの授業をしっかり習得すること コミュニケーション能力を高めておくこと		